

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門A						
担当教員	木本 雅子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽理論、音楽史、ソルフェージュを学ぶと共に、実際に楽曲を演奏することによってクラシック音楽の理解を深める。						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典、音楽史、ソルフェージュについて学ぶ。 ・呼吸法、発声法を学び声楽曲を実際に歌い、歌を通して音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。 						
到達目標	<p>音楽史を学ぶことによって音楽の文化的歴史的背景を理解し、各時代の音楽様式を把握する。 基礎的な音楽理論の知識を身につける。 呼吸法、発声法を身につけると同時にソルフェージュ能力を習得する。 音楽表現としての歌を歌うことが出来るようになる。 アンサンブル曲を学ぶことにより、アンサンブルの楽しさを体感し、協調性を高める。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 呼吸法について 第2回 呼吸法及び発声法について演習1 第3回 呼吸法及び発声法について演習2 ソルフェージュ課題演習1 楽典1 音名と譜表 第4回 ソルフェージュ課題演習2 楽典2 リズムと拍子 第5回 ソルフェージュ課題演習3 楽典3 音程 第6回 ソルフェージュ課題演習4 楽典4 音階と調 第7回 ソルフェージュ課題演習5 楽典5 和音 第8回 ソルフェージュ課題演習6 楽典6 まとめと小テスト 第9回 ソルフェージュ課題演習7 音楽史(ヨーロッパ音楽の流れ) 古代・中世の音楽①グレゴリオ聖歌 モノフォニー 第10回 ソルフェージュ課題演習8 古代・中世の音楽②中世の音楽観 第11回 ソルフェージュ課題演習9 ルネサンスの音楽①ポリフォニー 第12回 ソルフェージュ課題演習10 ルネサンスの音楽②楽譜の発展 第13回 ソルフェージュ課題演習11 ルネサンスの音楽③ミサ曲の発展 第14回 ソルフェージュ課題演習12 ルネサンスの音楽④宗教改革と音楽 第15回 復習と実技試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で配られたプリントの予習及び復習						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点50%、小テスト20%、実技試験30%						
教科書	『はじめての音楽史—古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 著者 久保田慶一、ほか 音楽之友社 ISBN4-276-11010-6 c1073 上記の他、資料、楽譜を配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門B						
担当教員	木本 雅子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽理論、音楽史、ソルフェージュを学ぶと共に、実際に楽曲を演奏することによってクラシック音楽の理解を深める。						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典、音楽史、ソルフェージュについて学ぶ。 ・呼吸法、発声法を学び声楽曲を実際に歌い、歌を通して音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。 						
到達目標	<p>音楽史を学ぶことによって音楽の文化的歴史的背景を理解し、各時代の音楽様式を把握する。 基礎的な音楽理論の知識を身につける。 呼吸法、発声法を身につけると同時にソルフェージュ能力を習得する。 音楽表現としての歌を歌うことが出来るようになる。 アンサンブル曲を学ぶことにより、アンサンブルの楽しさを体感し、協調性を高める。</p>						
授業計画	第1回 バロック音楽① モノディー 第2回 バロック音楽② バッハ 第3回 バロック音楽③ ヘンデル 第4回 古典派の音楽① ホモフォニー 第5回 古典派の音楽② モーツァルト 第6回 古典派の音楽③ ベートーベン 第7回 ロマン派の音楽① フランス革命と音楽 第8回 ロマン派の音楽② ドイツリート 第9回 ロマン派の音楽③ イタリアオペラ 第10回 近代の音楽 絵画と音楽 第11回 現代の音楽 第12回 日本における西洋音楽の流れ① 滝廉太郎 山田耕作 第13回 日本における西洋音楽の流れ② 中田喜直 團伊久磨 第14回 日本における西洋音楽の流れ③ 三善晃 武満徹 その他の作曲家 小テスト 第15回 まとめと実技試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で配られたプリントの予習と復習						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点50%、小テスト20%、実技試験30%						
教科書	『はじめての音楽史—古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 著者 久保田慶一、ほか 音楽の友社 ISBN4-276-11010-6 c1073 上記の他、資料、楽譜を配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	長編小説を読む						
授業の概要	<p>サマセット・モームの『人間の絆（きずな）』という長編小説を読んでいます。モームは、19世紀末から20世紀前半に活躍したイギリスの作家です。『人間の絆』は自伝的な要素の強い小説で、とくに何らかの思想的傾向性をもたず、物語は淡々と展開していきます。内容は、9歳で両親を失い孤児となった主人公が、みずからの肉体的コンプレックスや人づきあいの下手さに悩みながら成長していき、青年期に達すると芸術に傾倒（けいとう）したり、恋愛を経験したりしながら、人生の幸福とは何かを考えていくものです。こういうタイプの小説は、教養小説と呼ばれます。</p> <p>授業参加者は、大学入学時までこのような比較的長い小説を読んでこなかったでしょうから、長文読解のトレーニングになると思います。また、主人公とともに人生の幸福とは何かを考えていくことは、意義深い体験になるだろうと信じます。</p>						
到達目標	小説のテキストを分析的に読めるようになること						
授業計画	<p>第1回 授業の進め方、成績評価の方法の説明。モーム文学の解説。</p> <p>第2回 教師が発表し、レジュメのまとめ方を実地指導。</p> <p>第3回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第4回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第5回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第6回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第7回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第8回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第9回 『人間の絆』の映画化作品を鑑賞</p> <p>第10回 『人間の絆』の映画化作品を鑑賞</p> <p>第11回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第12回 レポートの書き方について解説</p> <p>第14回 前回までに読んだところまでのレポートを提出</p> <p>第15回 提出レポートを添削して返却後、個別指導</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の番でなくとも小説を読むこと。						
授業方法	口頭発表と質疑応答に基づく講義						
評価基準と評価方法	口頭発表30%、レポート70%						
教科書	サマセット・モーム『人間の絆（上・下）』（新潮文庫）中野好夫訳						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む						
授業の概要	紀元前8世紀に成ったとされ、西洋文学史のAでありZである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。						
到達目標	常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。						
授業計画	第1回 『オデュッセイア』概説(1)—神話的背景、映画ビデオ 第2回 『オデュッセイア』概説(2)—文学史的背景、映画ビデオ 第3回 第九歌「キュクロプスの話」 第4回 第十歌「魔女キルケーの話」 第5回 第一歌「神々の会議」 第6回 第二歌「テレマコスの旅立ち」 第7回 第五歌「魔女カリュプソの島」 第8回 第六歌「少女ナウシカー」 第9回 第七・八歌「パイエケス人の王宮」 第10回 第十一歌「冥府行」 第11回 第十二歌「セイレーン、スキュラ、カリュプディス」 第12回 レポートの課題と書き方 第13回 オデュッセウスと女たち 第14回 冒険ヒーローとしてのオデュッセウス 第15回 まとめと展望、期末レポート提出						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストを一緒に読んでゆく(声に出して輪読する)。漢字の読み取りテストも行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点40%、期末レポート60%で評価する。						
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』(岩波文庫)、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』(岩波文庫)、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321025-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	長編小説を読む						
授業の概要	<p>サマセット・モームの『人間の絆（きずな）』という長編小説を読んでいます。モームは、19世紀末から20世紀前半に活躍したイギリスの作家です。『人間の絆』は自伝的な要素の強い小説で、とくに何らかの思想的傾向性をもたず、物語は淡々と展開していきます。内容は、9歳で両親を失い孤児となった主人公が、みずからの肉体的コンプレックスや人づきあいの下手さに悩みながら成長していき、青年期に達すると芸術に傾倒（けいとう）したり、恋愛を経験したりしながら、人生の幸福とは何かを考えていくものです。こういうタイプの小説は、教養小説と呼ばれます。</p> <p>授業参加者は、大学入学時までこのような比較的長い小説を読んでこなかったでしょうから、長文読解のトレーニングになると思います。また、主人公とともに人生の幸福とは何かを考えていくことは、意義深い体験になるだろうと信じます。</p>						
到達目標	小説テキストを分析的に読めるようになること。						
授業計画	<p>第1回 教師が発表し、実地指導。 第2回～第5回 1人約20ページ、3人発表、計60ページの速さで進む。 第6回～第7回 『人間の絆』の一部の逸話を扱った『痴人の愛』というイギリス映画があるので、これを鑑賞する。 第8回～第13回 計60ページの速さで進み、13回目で小説を読了したい。 第11回目にレポートの書き方について指導し、第13回目に仮レポートを提出してもらう。 第14回 提出された仮レポートを教師が徹底的に添削し、各人に返却する。 このとき、どのようなことについて書くべきか、個別指導を行う。 第15回 優秀なレポート幾つかのコピーをもってくるので、これらを輪読し、どのように優れているのか、どのように優れたレポートを書くべきなのかを説明する。その後、小説についての自分の考えを一人一人、発言してもらう。 (以上の結果、各人は仮レポートを書き改めて本レポートを作成し、教務課に提出する)</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の番でなくとも小説を読むこと。						
授業方法	毎回、1人約20ページほどの担当で、3名に発表してもらう。						
評価基準と評価方法	口頭発表30%、レポート70%						
教科書	サマセット・モーム『人間の絆（上・下）』（新潮文庫）中野好夫訳						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む						
授業の概要	紀元前8世紀に成ったとされ、西洋文学史のAでありZである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。						
到達目標	常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拓げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。						
授業計画	第1回 第十三歌「イタケへの帰還」 第2回 第十四歌「豚飼エウマイオス」 第3回 第十五歌「テレマコスの帰還」 第4回 第十六歌「父子の再会、討伐計画」 第5回 第十七歌「父子の帰館と求婚者たち」 第6回 第十八歌「乞食のオデュッセウス」 第7回 第十九歌「ペネロペイアとの対話」 第8回 第二十歌「討伐前夜」 第9回 第二十一・二歌「弓競技と求婚者誅殺」 第10回 求婚者たちの罪とゼウスの正義 第11回 第二十三歌「夫婦の再会」 第12回 認知のドラマと三つの印、謎のペネロペイア、レポートの課題と書き方 第13回 映画『キャストアウェイ』と『オデュッセイア』 第14回 映画『かくも長き不在』と『オデュッセイア』 第15回 まとめと展望、期末レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストを一緒に読んでゆく。漢字の読み取りテストも行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点40%、期末レポート60%で評価する。						
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321025-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	考古学						
担当教員	渡辺 伸行						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	日本考古学を学ぶ						
授業の概要	(1)日本考古学概論 歴史を学ぶには、文字で記録されたものから知る方法と、文字のない時代や文字で記録されなかった生活から知る方法があります。ここでは、主として文字に記録されなかった生活から歴史を考える方法、つまり考古学的方法を学習します。その上で、最近の発掘調査成果を踏まえて、考古学から日本の歴史をたどってみます。						
到達目標	遺跡から学ぶ方法、つまり遺跡がその土地に作られた意図とその場所が選ばれた理由を考え、歴史を体感する想像力を涵養します。考古学が対象とする遺物＝「もの」の背後の人間の技術と精神を学び、考古資料を扱う学芸員としての基本的な思考法を身につけることを目指します。						
授業計画	<p>前期授業計画</p> <p>第1回 考古学とはなにか 第2回 考古学の方法と時代区分 第3回 旧石器時代の生活～自然環境と動・植物相～ 第4回 縄文時代～自然環境と生業～ 第5回 縄文時代の集落と住居 第6回 縄文人の精神生活 第7回 縄文時代の終末と弥生時代の開始 第8回 考古系博物館施設の見学 第9回 縄文人と弥生人 第10回 弥生時代の集落と住居 第11回 青銅器と祭祀 第12回 魏志倭人伝の考古学 第13回 倭国大乱と高地性集落 第14回 集落遺跡現地見学 第15回 弥生時代の墓の変遷 ～墳丘墓へ～</p> <p>後期授業計画</p> <p>第1回 前方後円墳の出現～前期古墳の特徴～ 第2回 巨大古墳の築造とその時代 第3回 古墳時代の集落と豪族居館 第4回 大陸との交流と渡来文化 第5回 古墳現地研修 第6回 後期古墳から終末期古墳へ 第7回 飛鳥・奈良時代～文字の普及と地方社会～ 第8回 宮都の造営～飛鳥京から平安京～ 第9回 仏教の普及と古代寺院の造営 第10回 古代集落の変遷～飛鳥時代から平安時代～ 第11回 古代宮都現地見学 第12回 福原京と大輪田の泊 第13回 戦国時代の山城と近世の城館 第14回 近世兵庫津から近代の神戸～港町の変遷～ 第15回 課題個別指導</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	休日には、身近にある博物館や歴史・考古資料館を見学してください。 史跡や神社仏閣なども訪ねて、その場所の地形や歴史地理を考える習慣をつけてください。						
授業方法	講義及び演習と現地見学						
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%						
教科書	プリント配布						

参考書	石川日出志『農耕社会の成立』岩波新書 ISBN-978400431271 佐原真「日本人の誕生」小学館ライブラリ1992年 寺沢薫『王権誕生』講談社学術文庫 ISBN-9784062919029 藤本強『考古学でつづる日本史』同成社 ISBN-9784886214218 佐原真「考古学への案内」岩波書店 2005年 菊池徹夫『考古学の教室』平凡社 ISBN-9784582853872 小林謙一『縄文はいつから?』新泉社 ISBN-9784787711014 阿部芳郎『考古学の挑戦』岩波ジュニア新書 ISBN-9784005006571 佐々木憲一『はじめて学ぶ考古学』有斐閣 ISBN-9784641124349
-----	---

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集						
担当教員	中谷 悦子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を知り、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えられるようになること。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立つでしょう。						
授業計画	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。 2. 広告とコミュニケーション ※広告って、なあに？ 3. 広告と産業、広告ビジネスの概要 ※広告マンって、どんな人？ 4. メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ※話題の広告を見てみよう。 5. メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ※話題の広告を見てみよう。 6. メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア） ※話題の広告を見てみよう。 7. メディアと広告表現④（インタラクティブメディア） ※話題の広告を見てみよう。 8. 広告計画からクリエイティブワークまで ※あの広告は、どうやってできた？ 9. ブランディングとは。 ※ブランドって、なんだ？ 10. コンセプトの発見。 ※何を訴えるか？ 11. 表現アイデアとその発想法 ※どう訴えるか？ 12. プレゼンテーションの手法 ※どう売り込むか？ 13. クリエイターの現場①ゲストスピーカーによる講義。 14. クリエイターの現場② ※TVCFは、どうやってできる？ 15. 広告制作のルールと倫理 ※広告に著作権ってあるの？ <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コピーライティングとは。 ※キャッチフレーズを作ってみよう。 2. コピーライターの資質。 ※コピーライターって、どんな人？ 3. 欧米の広告表現 ※欧米の広告、TVCFを見てみよう。 4. アジアの広告表現 ※アジアの広告、TVCFを見てみよう。 5. 日本の広告表現 ※日本の広告、TVCFを見てみよう。 6. 広告業界の現状。（ゲストスピーカーによる講義） ※広告業界の“いま”を知ろう。 7. 広告に見る企業のイメージ戦略 ※好きな企業について話してみよう。 8. クロスメディアと広告キャンペーン ※クロスメディア広告を探そう。 9. 公共広告について。 ※公共広告ってなあに？ 10. ワンコピー、ワンビジュアル ※いろんな表現方法を考えよう。 11. 広告プランニング演習（新聞広告） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 12. 広告プランニング演習（TVCF） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 13. 広告制作演習① ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 14. 広告制作演習② ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 15. プレゼンテーション ※自作の広告をプレゼンテーションしよう。 						
授業外における学習（準備学習の内容）	ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション						
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はおこないません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組む姿勢、発表力、出席率などを考慮し、総合的に評価します。						
教科書	なし						

参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』 (株) 電通 藤沢武夫 『広告の学び方作り方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザイナー-コミュニケーションをデザインする』 (株) 電通
-----	---

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	宗教の歴史A						
担当教員	勝村 弘也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	宗教の歴史を回顧する						
授業の概要	原始宗教から、仏教、ユダヤ教、キリスト教などの高等宗教まで諸宗教について比較しながら通覧する。						
到達目標	宗教の現代的な意味を見出す。また現代世界における価値観の多様化がどこに起因しているのかについて深く考える。						
授業計画	1) 宗教研究の方法 2) 石器時代の宗教 3) シャーマニズム 4) 預言者宗教 (1) 5) 預言者宗教 (2) 6) 日本神話 (1) 7) 日本神話 (2) 8) 仏教的なものの考え方 9) 小乗仏教と大乘仏教 10) 日本の仏教 (1) 11) 日本の仏教 (2) 12) ユダヤ教 (1) 13) ユダヤ教 (2) 14) イエスの教えとキリスト教の成立 15) まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	配布されるテキストを読んでおくこと						
授業方法	主として講義形式。学生による報告をも適宜行い、質疑応答に相当の時間をかける。						
評価基準と評価方法	授業への参加(単なる出席ではない)、2回程度の小レポートおよび学期末のレポートによる。						
教科書							
参考書	講義において知らせる						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	宗教の歴史B						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	宗教の歴史を回顧する						
授業の概要	日本の仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの諸宗教について比較しながら通覧する。また芸術と宗教の関係について考える。宗教をめぐる現代社会のさまざまな問題について考察する。						
到達目標	宗教の現代的な意味を見出す。また現代世界における価値観の多様化がどこに起因しているのかについて深く考える。						
授業計画	1) ゾロアスター教 2) イスラーム (1) 3) イスラーム (2) 4) 日本における仏教の展開 (1) 5) 日本における仏教の展開 (2) ゲスト・スピーカーを招く予定である 6) 古代キリスト教 7) 中世のキリスト教世界 (1) 8) 中世のキリスト教世界 (2) 9) イスラーム (3) 10) 啓蒙思想と理神論、人権思想 11) 宗教と芸術 (1) 12) 宗教と芸術 (2) 13) 宗教と芸術 (3) 14) 現代世界と諸宗教 (1) 15) 現代世界と諸宗教 (2)						
授業外における学習(準備学習の内容)	配布されるテキストを読んでおくこと						
授業方法	主として講義形式。学生による報告をも適宜行い、質疑応答に相当の時間をかける。						
評価基準と評価方法	授業への参加(単なる出席ではない)、2回程度の小レポートおよび学期末のレポートによる。						
教科書							
参考書	講義において知らせる						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IA (ギリシアの神話と文学)						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ギリシアの神話と文学						
授業の概要	古代ギリシア人の驚嘆すべき文化的達成(叙事詩、叙情詩、悲劇、喜劇、歴史叙述、哲学、弁論、彫刻、建築等々)は西洋、ひいては現代世界の学問文化の源流であるとともに、今日もその模範としての意義を失ってはいない。そして彼らの文学も哲学も歴史も美術も、諸民族の神話と比較して格段に豊かで洗練された彼らの神話のインスピレーションから生まれてきた。この授業では万華鏡のようなギリシア神話の世界と、その神話を題材としたギリシア古典文学の特質と魅力について学んでゆく。						
到達目標	①古代ギリシアの神話と文学について基礎的な知識をもつ。 ②神話と神話の文学を学び楽しむための語彙力・読解力を身につける。						
授業計画	第1回 神話(mythos, myth, mythology)とは何か? ギリシア神話の原典は? 第2回 ギリシア神話の構造—宇宙の生成、神々、英雄、人間 第3回 ギリシア文学の時代区分、古典期アテナイ—ギリシア文化の黄金期 第4回 王位簍奪神話とオリンポスの神々 第5回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(1)—『イリアス』 第6回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(2)—『オデュッセイア』、小テスト① 第7回 プロメテウス神話とヘシオドスの人間観 第8回 アイスキュロスの『縛られたプロメテウス』 第9回 ギリシア神話の英雄たち—ヘラクレス、不条理を生きる 第10回 ギリシア神話の英雄たち—ペルセウス他、小テスト② 第11回 ギリシア神話と日本の神話 第12回 ギリシア悲劇の最高傑作—ソポクレスの『オイディプス王』 第13回 女の叫び—エウリピデスの『メデア』 第14回 貞淑で賢い女の楽しい話—エウリピデスの『ヘレネー』 第15回 まとめと展望、期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって、教科書を読むと共に、図書館で参考文献を借り出して読むこと。						
授業方法	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。						
評価基準と評価方法	授業への参加度30%、小テスト2回30%、期末テスト40%で評価する。						
教科書	『ギリシア神話—神々と英雄に会う』 西村賀子著 中公新書 ISBN4-12-101798-6						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IB（ギリシア語）						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	ギリシア語初歩						
授業の概要	ただ単に「ギリシア語を学ぶ」といえば、それは現在のギリシャで話されている「現代ギリシャ語」ではなくて、古代のギリシア語のことである。ふつうこのギリシア語を学ぶのは西洋文化の源泉となった文学・歴史・哲学の古典、さらには新訳聖書などを原語で読んだり、研究したりするためだが、この授業では、受講生がギリシア語とはどんな言語かを知り、西洋古典文化や、英語やドイツ語など印欧語系の言語そのものへの興味関心を高めることを目的として、ごく簡単な文法を学び、簡単な文章を訳読する。						
到達目標	ギリシア文字を発音し、名詞と動詞の初歩的な変化形を識別し、その範囲での簡単なギリシア語の文章を理解できるようにすること。						
授業計画	第1回：古典ギリシア語について、ギリシア語のアルファベット、音韻の分類 第2回：発音（二重母音、注意すべき子音、氣息記号） 第3回：発音（音節とアクセント） 第4回：動詞の変化(1)―直説法能動相現在人称変化 第5回：第一変化名詞(1) 第6回：動詞の変化(2)―直説法能動相未来人称変化 第7回：第一変化名詞(2) 第8回：動詞の変化(3)―直説法能動相未完了過去人称変化 第9回：第二変化名詞 第10回：第一第二変化形容詞 第11回：前置詞 第12回：動詞の変化(4)―直説法能動相アオリスト人称変化 第13回：簡単なギリシア語の文章を読む 第14回：簡単なギリシア語の文章を読む 第15回：簡単なギリシア語の文章を読む						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の復習、宿題の練習問題						
授業方法	教科書に沿って文法事項を学び、練習問題を解いてゆく						
評価基準と評価方法	授業への参加度や学習態度、課題の達成度を総合して平常点で評価する。						
教科書	田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』（岩波全書）ISBN4-00-020125-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の宗教						
担当教員	勝村 弘也						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～4	単位数	4.0
授業のテーマ	宗教の歴史を回顧する						
授業の概要	原始宗教から、仏教、ユダヤ教、キリスト教などの高等宗教まで諸宗教について比較しながら通覧する。日本の仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの諸宗教について比較しながら通覧する。また芸術と宗教の関係について考える。宗教をめぐる現代社会のさまざまな問題について考察する。						
到達目標	宗教の現代的な意味を見出す。また現代世界における価値観の多様化がどこに起因しているのかについて深く考える。						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 宗教研究の方法 2) 石器時代の宗教 3) シヤーマニズム 4) 預言者宗教 (1) 5) 預言者宗教 (2) 6) 日本神話 (1) 7) 日本神話 (2) 8) 仏教的なものの考え方 9) 小乗仏教と大乘仏教 10) 日本の仏教 (1) 11) 日本の仏教 (2) 12) ユダヤ教 (1) 13) ユダヤ教 (2) 14) イエスの教えとキリスト教の成立 15) まとめ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ゾロアスター教 2) イスラーム (1) 3) イスラーム (2) 4) 日本における仏教の展開 (1) 5) 日本における仏教の展開 (2) ゲスト・スピーカーを招く予定である 6) 古代キリスト教 7) 中世のキリスト教世界 (1) 8) 中世のキリスト教世界 (2) 9) イスラーム (3) 10) 啓蒙思想と理神論、人権思想 11) 宗教と芸術 (1) 12) 宗教と芸術 (2) 13) 宗教と芸術 (3) 14) 現代世界と諸宗教 (1) 15) 現代世界と諸宗教 (2) 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	配布されるテキストを読んでおくこと						
授業方法	主として講義形式。学生による報告をも適宜行い、質疑応答に相当の時間をかける。						
評価基準と評価方法	授業への参加 (単なる出席ではない)、2回程度の小レポートおよび学期末のレポートによる。						
教科書							

参考書	講義において知らせる
-----	------------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IA						
担当教員	多賀谷 真吾・武田 良材						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代のイギリス・ドイツの文学と文化						
授業の概要	<p>担当者：多賀谷 真吾 テーマ：文芸としての英米文学 英米文学における詩と劇の話をする。具体的には、シェイクスピアの劇、ワーズワスのロマン派の詩、そしてマザー・グースなどである。詩を身近に感じて、親しんでもらうことがこの授業の最大目標である。文学としてではなく、文芸としての詩の面白さを紹介するが、そのひとつのやり方として、後半の授業では、詩が映画という他の芸術領域と密接な関係を持つことを指摘する。</p> <p>担当者：武田 良材 テーマ：二つの世界大戦とドイツ文学 20世紀前半に活躍し、今なおドイツ文学界で最も有名なトーマス・マンならびにマン家を取り上げる。ノーベル賞作家トーマス・マン、その兄で、官能的作風の断固たる反戦の闘士ハインリヒ・マン、ナチスに敵対したトーマス・マンの子供たち。彼らの事績から、当時のドイツ文学をめぐる状況が幅広く知られる。同じく侵略国だった日本の文学状況を浮き上がらせる鏡でもある。受講に際しては、トーマス・マンの長編小説を一つは読んでおくことが望ましい。</p>						
到達目標	近現代のイギリス・ドイツの文学と文化の理解						
授業計画	<p>担当者：多賀谷 真吾 第1回：イントロダクション 第2回：英語の詩ってどんなもの？ 第3回：マザー・グースとは？ 第4回：詩人と自然—ワーズワス 第5回：シェイクスピアの言葉の力 第6回：詩と映画の深い関係（1） 第7回：詩と映画の深い関係（2） 第8回：まとめと結論</p> <p>担当者：武田 良材 第1回：若きトーマス・マンの成功（大衆文学） 第2回：文化対文明の兄弟げんか 第3回：エーリカ・マンとクラウス・マンの反ナチス活動（ナチスの台頭） 第4回：アメリカでの成功（亡命） 第5回：悪魔との契約（第二次世界大戦） 第6回：クラウス・マンのアンガージュマンと絶望（冷戦） 第7回：日本でのナチス文学ならびに亡命ドイツ文学（戦争責任）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。						
授業方法	2人の講師によるオムニバス形式の講義						
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。2人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。						
教科書	プリントを配布						
参考書	授業中に紹介						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IB						
担当教員	柿沼 伸明・浦部 依子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代のロシアと中国の文学・文化						
授業の概要	<p>担当者：柿沼 伸明 テーマ：ロシア文化史 18世紀から20世紀にかけてのロシアの歴史、文学、美術、音楽、バレエ、アニメについて概説する。ロシア文学としては、19世紀の二大文豪であるトルストイとドストエフスキーの生涯と作品をとりあげる。音楽と美術は、世界的によく知られた作曲家や画家の作品を実際に鑑賞してみる。また、ロシアで開発されたピンスクリーンアニメ、切り絵アニメ、油絵アニメの制作方法を説明し、その映像効果を直接、味わってみる。</p> <p>担当者：浦部 依子 テーマ：中国近現代文学概論 アヘン戦争（1840）を境として、それまでの中国文化の体系は大きく変化し、内外の複雑な政治状況の中で胚胎した新しい文学は、近代中国の文学の方向を確実に形成していった。本講義は、清朝末期から五・四運動（1919）前までの中国近代文学の状況と。五・四運動から新中国の成立（1949）までの現代文学の状況、およびそれ以降の文芸上の重要事項をとりあげ、中国近現代文学の誕生の周辺とその諸相について講じる。 本講義で取り扱う中国の新しい文学は、文言に替わる口語体の文章の提唱など、中国伝統文学の特質とは異なるものであるが、その一方で変わることのない共通点もある。それは、中国文学はおよそ何れの時代においても、政治を抜きにしては述べ難いという点である。 毎回の講義では各時期の社会背景を概説したのち、二人の作家を取りあげ、作品解釈やディベートなどを通じて、時代と作家が表現しようとしたものについての考察を進めてゆく。</p>						
到達目標	近現代のロシアと中国の文学・文化の理解						
授業計画	<p>担当者：柿沼 伸明 第1回：ロシアのアニメ映画監督の紹介 第2回：ロシア史概観 第3回：19世紀ロシア文学史（トルストイ解説） 第4回：ロシアにおけるバレエの歴史とチャイコフスキー 第5回：19世紀ロシア文学史（ドストエフスキー解説） 第6回：18～20世紀ロシア美術小史 第7回：ロシアにおけるクラシック音楽小史</p> <p>担当者：浦部 依子 *作家と作品は変更することがある。 第1回：中国文学史における近現代文学の位置と特質 第2回：清代後期の社会背景と文学 （龔自珍「詠史」、梁啓超「太平洋遇雨」/「少年中国説」、女流作家秋瑾「満江紅」） 第3回：中華民国期の社会背景と文学（五四新文化運動とは・胡適・陳独秀・魯迅「狂人日記」） 第4回：中華民国期の文学（女流作家謝冰心「二つの家庭」、魯迅「阿Q正伝」、郭沫若「漂流三部曲・岐路」） 第5回：（小テスト①実施）中華民国期の文学（茅盾「林商店」、巴金「家」、老舍「駱駝祥子」、女流作家丁玲「霞村にいた時」、毛沢東「文芸講話」とは） 第6回：中華人民共和国（新中国）成立期の社会背景と文学（趙樹里「小二黒結婚」/「李有才板話」） 第7回：新中国文革期の文芸（歴史戯曲 吳晗「海瑞罷官」、文化大革命とは・革命現代京劇） 第8回：（小テスト②実施）近現代文学のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。						
授業方法	2人の講師によるオムニバス形式の講義						
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。2人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。						
教科書	プリントを配布						

参考書	<p>授業中に紹介 (以下、浦部依子先生の授業の参考書)</p> <ol style="list-style-type: none">①吉田富夫『中国現代文学史 一九一五 - 四九』(朋友書店、1997)②藤井省三、大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997) * 第Ⅱ部「近現代の中国文学」(p. 102~)③魯迅、竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記 他十二篇 (呐喊)』(岩波書店、1981)④山田敬三『魯迅の世界』(大修館書店、1977)⑤丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈1〉～〈3〉』(二玄社、2000~2001)⑥『中国現代文学選集』20巻(平凡社、1962~1963)⑦丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985、1996)⑧中国文学研究会編『中国新文学事典』(河出文庫、1955)
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IIA						
担当教員	山本 明美・勝村 弘也・宮田 玲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 担当者：山本のテーマは、「ヨーロッパの古典文芸」 担当者：宮田・勝村のテーマは、「古代オリエントの文芸作品」						
授業の概要	3名の担当者による講義である。以下に各担当者による授業の概要を述べる。 担当者：山本明美 ヨーロッパ17世紀末までの古典文芸をおおまかに理解するのが目的。ヨーロッパの古典文芸は、古代ギリシア・ローマ文化とキリスト教文化という二つの潮流の賜物である。これらの潮流がいかに古典の文芸を創造していったかを、こうした時代の社会状況にも触れながら以下の各テーマに焦点を合わせて眺めていく。 担当者：宮田玲・勝村弘也 古代メソポタミア、エジプト、シリア・パレスティナからは多くの文芸作品がわれわれにもたらされており、それらには旧約聖書の物語との関係もうかがえる。講義では、古代メソポタミア（バビロニア、アッシリア）とエジプトから、神話や物語を取り上げる。また、ヒエログリフとエジプト美術についても紹介する。						
到達目標	世界の古典的な作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を作る。						
授業計画	<p>担当者：山本明美</p> <p>第1回 ヨーロッパの歴史・地域・文化</p> <p>第2回 宗教観（天国と地獄、神と恋人）：ダンテ『神曲』</p> <p>第3回 宗教制度・結婚生活：ボッカッチョ『デカメロン』、チョーサー『カンタベリー物語』</p> <p>第4回 愛と服従：ペロー『童話集』</p> <p>第5回 人の生き方：ペロー『童話集』</p> <p>第6回 フランスの新旧論争について</p> <p>第7回 試験</p> <p>担当者：宮田玲（第1－5回、第8回）・勝村弘也（第6－7回）</p> <p>第1回 古代メソポタミアの風土と歴史。エヌマ・エリシュ—バビロニア創造神話—</p> <p>第2回 アトラ・ハシス—大洪水物語—</p> <p>第3回 ギルガメシュ叙事詩—英雄ギルガメシュの生と死—</p> <p>第4回 ハンムラビ法典—古代の判決集—。小テスト。</p> <p>第5回 古代エジプトの風土。ヒエログリフ（その1）。</p> <p>第6回 ヒエログリフ（その2）、古代エジプトの教訓文学、神話。</p> <p>第7回 死者の書。</p> <p>第8回 アテン賛歌、古代エジプト人の生活。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布資料を熟読しておくこと						
授業方法	山本：講義と試験。学生は授業で解説を聞きながら諸作品の要約・抜粋を読み、試験を受ける。 宮田・勝村：講義						
評価基準と評価方法	担当者：山本明美 平常点24%、試験76%を総合評価。 担当者：宮田・勝村 平常点約40%、レポート約60%						
教科書	講義開始日に配布する資料。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IIB						
担当教員	浦部 依子・木下 昌巳						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 担当者：浦部のテーマは、「中国古典戯曲のヒロインたち」 担当者：木下のテーマは、「古代ギリシャの文芸」						
授業の概要	オムニバス形式による講義である。以下に各担当者による授業の概要を述べる。 担当者：浦部依子 中国文学は、伝統的ジャンルの「詩・文」のほか、宋代頃には音楽を伴う「詞（ツイー）」が成長し、元明清には「戯曲・小説」の興隆を見ます。この講義で扱う女性や男女の文学主題は、特にこれらの後発的なジャンルにおいて、いっそうその精彩を放ちました。講義ではまず、中国文学の特質と戯曲文学の位置を講じたのち、毎回ひとつの名作を紹介し、映像資料によるレビューや討論、さらにグループ別の名作の寸劇発表などを通して、中国古典戯曲のヒロインの主体意識を多面的に考察します。 担当者：木下昌巳 古代ギリシアの文芸を概観し、その代表的作品を解説・鑑賞する。古代ギリシアの文化は、ヨーロッパにおいては、学問・芸術など広範囲に渡って、キリスト教と並びヨーロッパ全体の文化全体の源泉というべき地位を担い、多方面に圧倒的な影響を与えてきた。文芸においても、ギリシア古典期に書かれた諸作品は、近代に至るまで古典的規範として仰がれ、時代時代の精神を吹き込まれながら読まれ続け、さまざまな分野の芸術家たちにインスピレーションを与え続けてきたのである。この講義では、古代ギリシアの文芸作品のなかから、プラトンの対話篇『饗宴』を読み、ソポクレスの悲劇『オイディプス王』をDVDを使って鑑賞する。						
到達目標	世界の古典的な作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を作る。						
授業計画	担当者：浦部依子 * 戯曲設定は、変更することがあります。 第1回 a中国文学の特質と古典戯曲文学の位置 b匈奴へ嫁した宮女 王昭君「昭君出塞（しょうくんしゅっさい）」 第2回 メイドがとりもつお嬢様の恋 崔鶯鶯「西廂記（せいしょうき）」 第3回 糠（ぬか）をたべる嫁 趙五娘「琵琶記（びわき）」 第4回 生き返ったお嬢様 杜麗娘「牡丹亭（ぼたんてい）」 第5回 名妓が拾ったまことの恋 王美娘「占花魁（おいらんを占む）」 第6回 (レポート提出) 女性主体意識討論、発表 第7回 発表 担当者：木下昌巳 1、ギリシアの文芸概観 2、文芸と哲学 3、プラトン『饗宴』を読む(1) 人はなぜ恋をするのか？ 4、プラトン『饗宴』を読む(2) 「プラトニック・ラブ」 5、ギリシア悲劇概観 6、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する(1) 7、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する(2) 8、ギリシア悲劇と現代思想—オイディプス・コンプレックスについて						
授業外における学習(準備学習の内容)	配布資料を熟読しておくこと						
授業方法	浦部：文学講義（映像資料によるレビューと討論を含む） 文学表現（グループによる名場面の寸劇発表） 木下：講義						
評価基準と評価方法	担当者：浦部依子 平常点約40%、レポート約60% レポート提出に関する注意： ① 授業の戯曲内容に関する自由なトピック、あるいは戯曲1つを中心に、任意の文字サイズで、A4横書き3頁（片面又は両面）以内に所見をまとめ、教務へ提出のこと。1行目には、講義名、トピック、学生番号、氏名を明記すること。 ② ネット上の不用意な文転用は、剽窃となる事がある。自分の文と他人の文（引用文）を明確に区別し、引用範囲が一見してわかるようにする。引用は出典を書く。 ③ 提出者間で全く酷似したレポートは、再提出を依頼する場合がある。 担当者：木下昌巳 レポート70%、平常点30%。						
教科書	講義開始日に配布する資料。						

参考書	<p>担当者：浦部</p> <p>・中国文学全般に関する参考文献（抜粋）：</p> <p>倉石武四郎『中国文学講話』東京：岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154</p> <p>吉川幸次郎『中国文学入門』東京：弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X</p> <p>岩城秀夫『中国文学概論』京都：朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479</p> <p>興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都：世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X</p> <p>大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303</p> <p>章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学出版社2007 ISBN: 9787309054620（中国語）</p> <p>浦部依子「花の中国文学漫歩」（月刊『東方』連載）東京：東方書店1998年3月～99年2月（205号～216号）ISSN: 0910-8904</p> <p>・戯曲の日本語訳書（抜粋）：</p> <p>王昭君（おうしょうくん）</p> <p>1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳 『国訳漢文大成』文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7</p> <p>西廂記（せいしょうき）</p> <p>1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註 『国訳漢文大成』文学部第9巻//a 東京：国民文庫刊行會，1923</p> <p>2『西廂記』王奕甫著、鹽谷節山訳 東京：昌平堂1948</p> <p>3『新訳西廂記』岸春風楼訳 東京：文教社 1916（大正5年）</p> <p>4『西廂記』岡島獻太郎訳 東京：團々社書店（発売）1894</p> <p>琵琶記（びわき）</p> <p>1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註 『国訳漢文大成』文学部第9巻//a東京：国民文庫刊行會，1923</p> <p>2「國譯琵琶記」鹽谷温訳註 『国訳漢文大成』文学部第35冊（第9帙の3）東京：国民文庫刊行會，1923</p> <p>杜麗娘 「牡丹亭（ぼたんてい）」</p> <p>1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳 『国訳漢文大成』文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7</p> <p>2「還魂記」岩城秀夫訳『戯曲集 下』中国古典文学大系53 東京：平凡社 1971</p> <p>王美娘 「占花魁（おいらんを占む）」</p> <p>1「売油郎独占花魁」千田九一・駒田信二訳『今古奇観 上』中国古典文学大系37東京：平凡社1970</p> <p>担当者：木下昌巳</p> <p>プラトン 著 森進一訳 『競演』（新潮文庫）</p> <p>ソポクレス 著 藤澤令夫訳 『オイディプス王』（岩波文庫）</p> <p>（必要な箇所はは授業中に配布するので、各自で購入する必要はありません。）</p>
-----	---

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の指導						
授業の概要	卒業論文執筆のための基本作業と細かな文章作法を教え、各人が自分の関心テーマに沿って充実した卒業論文を完成させることを助ける。						
到達目標	卒業論文の完成						
授業計画	<p>第1回：卒業論文提出までの日程・課題の説明する。</p> <p>第2～6回：卒業論文のテーマの見つけ方、参考文献の探し方、卒業論文の書き方、日本語の文章作法等を指導する。</p> <p>第7～15回：受講者各人が卒論原案について口頭発表（1人2回）。お互いに討議し、問題点を指摘し合う。</p> <p>（第14回目に、卒論の章構成・各章内容の箇条書き・参考文献リストを提出すること）</p> <p>第16～20回：論理展開の方法、引用と脚注の仕方など卒論の細則について解説する。受講者は、執筆中の章の内容について詳しく口頭発表せねばならない。</p> <p>（10月中旬までに、少なくとも完成させた卒論の1章を指導教官に提出すること）</p> <p>21回目以降：提出された文章を添削し、論理構成や日本語表現などについて個別に指導する。</p> <p>（書き終えた章はどんどん指導教官のもとに持ってくる。1人3～4回程度、卒論テキストを校閲する。最終的にOKが出されたとき初めて、卒論制作が終了する）</p> <p>1月中旬：卒論を教務課に提出。</p> <p>（OKの出されていない卒論制作者は、引き続き作業を継続すること。OKの出た卒論も、もう一度精読する）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	卒論のテーマが定まったならば、関連書籍・論文をどんどん読んでいくこと。						
授業方法	初めは講義、原稿をもってきた段階から文章添削と個別指導。						
評価基準と評価方法	出席20%、卒業論文の内容80%で評価。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	勝村 弘也						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究の指導						
授業の概要	研究テーマの設定、各自のテーマに応じた研究方法の指導、論文の書き方などを指導する。						
到達目標	適切なテーマを設定して、論文の形式にまとめあげること。						
授業計画	前期は、学生の関心に対応した文献の講読を中心とする。また、フィールドワークを行うことがある。研究の方向性を見出し、それに対応した研究方法を考える。前期末までに各自主要な参考文献を確定する。後期は、個別指導を原則とする。11月に中間発表を行う。						
授業外における学習(準備学習の内容)	各自で必要なフィールドワークを行ったり、参考文献を読む。						
授業方法	講義形式、読書会形式(以上前期)、個別指導、学生の研究発表など(以上後期)。フィールドワーク。						
評価基準と評価方法	卒業研究の結果のみ(100パーセント)で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒論を書こう						
授業の概要	文学・芸術・文化（近現代中心、欧米－日本中心） 各学生の関心に沿ったテーマによる卒業論文の作成を目指して個別指導する。						
到達目標	卒論完成						
授業計画	完全個別指導。各学生と相談して、日時（場所）の詳細、内容等を決める。						
授業外における学習（準備学習の内容）	卒論制作						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点20%、論文80%						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	村上 知彦						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	現代メディア文化の研究 卒業研究および卒論指導						
授業の概要	現代のメディア文化に関わるテーマについての、卒業研究の個人発表および関連テキストの講読。発表と全体討論、および個別指導による卒業論文の執筆指導。						
到達目標	卒業研究の主題となる問題を発見し、発表・討論をふまえて卒業論文を書き上げる。						
授業計画	<p>前期</p> <p>(1) 卒業研究の進め方</p> <p>(2) ~ (3) 卒業論文の書き方・文章作法の指導</p> <p>(4) ~ (8) 卒論テーマについての第1回口頭発表、関連文献講読、全体討論</p> <p>(9) ~ (13) 卒論テーマについての第2回口頭発表、討論と個別指導、卒論原案作成</p> <p>(14) ~ (15) 卒論原案についての全体指導</p> <p>後期</p> <p>(16) ~ (18) 夏休み期間の研究状況報告と中間発表</p> <p>(19) ~ (23) 個別指導、仮提出、論点・構成および文章指導</p> <p>(24) ~ (28) 全体試問、修正指導</p> <p>(29) ~ (30) 提出論文の講評、再提出指導</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業前学習：文献探索、調査などを積極的におこなう。</p> <p>授業後学習：討論での意見、教員の指導を積極的に活用する。</p>						
授業方法	演習形式および個別指導						
評価基準と評価方法	卒業論文80%、中間発表および研究に取り組む姿勢20%						
教科書	<p>「勝つための論文の書き方」鹿島茂、文春新書 ISBN4-16-660295-0</p> <p>「論文の教室 レポートから卒論まで」戸田山和久、日本放送出版協会 ISBN 978-4-14-001954-2</p>						
参考書	<p>「よくわかるメディアスタディーズ」伊藤守編著、ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623052066</p> <p>「はじめてのメディア研究」浪田陽子・福間良明編、世界思想社 ISBN978-4-7907-1563-4</p> <p>その他、各人のテーマに応じて授業中に紹介します。</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	山田 道夫						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	文芸第1演習を修得した者を対象に、比較文学・文芸批評の領域において、卒業研究および卒業論文作成を指導する。						
到達目標	受講生各自が選択した主要テキストを綿密に読解考察し、参考文献を探索調査して、自分なりの問題を見出し、有意義で総合的な解答を構築するという作業を完遂することが到達すべき目標です。これによって、これまでさまざまな授業で積み上げてきた「読んで考える力、考えて書く力」に総仕上げを施すことになる。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 インTRODクシヨン—卒業研究と卒業論文について</p> <p>第2回 広い研究トピックの選定(1)</p> <p>第3回 広い研究トピックの選定(2)</p> <p>第4回 主要テキストの選定(1)</p> <p>第5回 主要テキストの選定(2)</p> <p>第6回 主要テキストの選定(3)</p> <p>第7回 参考文献の探索(1)</p> <p>第8回 参考文献の探索(2)</p> <p>第9回 主要テキストの解題と参考文献リストの作成</p> <p>第10回 問題の探索(1)</p> <p>第11回 問題の探索(2)</p> <p>第12回 問題の探索(3)</p> <p>第13回 先行研究・資料の収集(1)</p> <p>第14回 先行研究・資料の収集(2)</p> <p>第15回 問題の絞込みと夏休み期間中の研究計画</p> <p>後期</p> <p>第1回 第一次草稿提出</p> <p>第2回 中間報告会(1)</p> <p>第3回 中間報告会(2)</p> <p>第4回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第5回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第6回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第7回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第8回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第9回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第10回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第11回 第二次草稿提出</p> <p>第12回 提出前点検</p> <p>第13回 提出前点検</p> <p>第14回 卒業論文試問</p> <p>第15回 卒業論文試問</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	卒業研究は卒業年次の大半の時間をあてて取り組むべき授業である。授業外における広範な文献・資料調査が要求される。						
授業方法	前期は演習形式で、順番に経過報告・発表しながらディスカッションする。後期は中間報告会のあとは個別指導による研究の展開と執筆。毎週2～3名ずつ面談する。						
評価基準と評価方法	卒業研究への取り組み30%、提出された卒業論文の出来具合70%で評価する。						
教科書	授業時に指示する。						

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化Ⅳ／比較文化論Ⅳ						
担当教員	植 朗子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～4	単位数	4.0
授業のテーマ	前期：おとぎ話と怪談の比較文化論 後期：「美」と「醜悪」の比較文化論						
授業の概要	<p>前期 世界のおとぎ話や怪談を題材とする映画、絵本、小説、演劇を取り上げます。おとぎ話や怪談は、幻想文学、神話、伝説、メルヘン、ファンタジー、説話などにみられますが、その作品が成立した社会背景や時代背景が影響しています。それらの資料をもとに、おとぎ話と怪談を比較文化の観点から論じます。映像資料を視聴しますが、主にドイツ語圏と日本語圏の作品を中心に、北欧やロシアの作品も取り上げる予定です。</p> <p>後期 小説・映画・アニメーション・オペラ・演劇・絵画などに登場する「美女」と「美」を題材に、「美」にまつわる文化的な背景について取り上げます。古今東西、「美」と「醜悪」をテーマとする芸術論、芸術作品は数多くありますが、何を美の基準とするかは、その時代、地域、文化的な諸要素に左右されます。「美」と「醜悪」について文化史的な面から論じます。</p>						
到達目標	<p>前期 おとぎ話や怪談が生まれた社会的な背景や文化的背景について学びます。それらのジャンルについて正確な知識を身に付けるとともに、世界のさまざまな地域、色々な時代に誕生したおとぎ話・怪談の文化的な意義について、それぞれが論じることができるようになって下さい。</p> <p>後期 「美女」と「美」にかんする諸作品を通じて、美の基準どのように描かれているか検証します。またその背景となる様々な文化の比較と、その諸相について明らかにします。</p>						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 主旨説明</p> <p>第2回 日本のアニメと現代のおとぎ話—『天空の城ラピュタ』</p> <p>第3回 囚われの姫—「人魚姫」①アンデルセンの絵本</p> <p>第4回 囚われの姫—「人魚姫」②派生作品『崖の上のポニョ』</p> <p>第5回 囚われの姫—「人魚姫」③派生作品『カリオストロの城』</p> <p>第6回 囚われの姫—「ラプンツェル」と「いばら姫」グリム童話</p> <p>第7回 囚われの姫—『ブラザーズグリム』</p> <p>第8回 囚われた男—「カエルの王様」グリム童話と『紅の豚』</p> <p>第9回 囚われた男—『コンスタンティン』</p> <p>第10回 世界のファンタジー・怪談①ロシア</p> <p>第11回 世界のファンタジー・怪談②イギリス</p> <p>第12回 世界のファンタジー・怪談③北欧</p> <p>第13回 日本の怪談①古典</p> <p>第14回 日本の怪奇短編小説②現代</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p> <p>後期</p> <p>第1回 主旨説明</p> <p>第2回 「美」と「醜悪」の定義</p> <p>第3回 絵画・物語の中の「美女」</p> <p>第4回 絵画・物語の中の「美」</p> <p>第5回 ミュージカル『サロメ』</p> <p>第6回 オペラ『カルメン』</p> <p>第7回 美しい生き物、空想上の生物</p> <p>第8回 醜い生き物、空想上の生物</p> <p>第9回 『ハリーポッター』</p> <p>第10回 美しい魔物</p> <p>第11回 「美」と悪</p> <p>第12回 「醜悪」と善</p> <p>第13回 人形愛とロボット</p> <p>第14回 完全なる美</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。						
授業方法	講義。						

評価基準と 評価方法	テスト60% 平常点40%
教科書	なし（プリントを配布します）。
参考書	特になし。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化V／比較文化論V						
担当教員	光田 和伸						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～4	単位数	4.0
授業のテーマ	前期：「花」と節句 後期：産屋（うぶや）と喪屋（もや）						
授業の概要	<p>前期 御ひな祭りと桃の花、端午の節句と菖蒲など、節句のお祝いには特別の花との結びつきがみられます。その意味をたずねて、起源と発展を考えてみます。</p> <p>後期 病院で産まれて病院で死ぬ。いまではあたりまえようになったこの習慣も、あんがい最近の成立です。大都市はべつとして、60年前まで、ひとは自宅で産まれ自宅で死を迎えました。さらにもっと昔は、自宅の外部に、そのための仮の建物を作ることもふつうに行われていたようです。そこではさまざまな禁忌（タブー）や習俗がありました。</p>						
到達目標	<p>前期：花が人間の生活になぜ必要であるのか、その古代からのメッセージを感じ取れるようになること。</p> <p>後期：生誕と死去の作法をたどりなおし、その重さをもういちど確かなものにします。</p>						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 七草粥とよもぎ餅 2 端午の節句（5月5日）①「菖蒲を葺く」という行事 3 端午の節句 ②「しょうぶ」と「あやめ」 4 端午の節句 ③「あやめ」「はなしょうぶ」「かきつばた」と古典文学 5 七夕（7月7日）①中国の七夕と日本の七夕 6 七夕 ②梶の葉と短冊 露で墨をするのはなぜ？ 7 七夕 ③七夕はだれのための行事か 8 お盆 盆花と供物の歴史 9 重陽（9月9日）①なぜ菊の花を飾るのか 10 重陽② 日本の菊が来た道 11 重陽③ 日本に根付かなかった節句 12 クリスマスの花① 「ひいらぎ」と「やどりぎ」の歴史 13 クリスマスの花② 「ポインセチア」そのほか 14 上巳の節句（ひな祭り）①なぜ桃の花を飾るのか 15 上巳の節句②ひな飾りのいろいろ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 産屋とはなにか 2 古典のなかの産屋 民俗遺産として残る産屋 3 産屋でのふるまい① 出産まで 4 産屋でのふるまい② 出産 5 産屋でのふるまい③ 産後から産屋を出るまで 6 新生児からお宮参りまで 7 育児の習俗① 8 育児の習俗② 9 育児の習俗③ 10 喪屋とはなにか 11 古典のなかの喪屋 民俗遺産として残る喪屋 12 喪屋でのふるまい① 13 喪屋でのふるまい② 14 葬儀と日常への復帰 15 まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	とくに必要ないが、その都度指示することがあります。						
授業方法	講義形式で行います。						
評価基準と評価方法	平常点とレポートを併用する予定です。						

教科書	プリントを配布します。
参考書	「神の木」(新潮社) 吉野裕子全集(人文書院) 日本産育習俗資料集成(第一法規出版)

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IA						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちにとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 19世紀西欧文化 3 西欧文化と日本文化 4 序論・歴史状況 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 5 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 6 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 7 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 8 欧米と日本5（日本） 9 総論・文芸の全体 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 10 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 11 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 12 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 13 欧米と日本5（日本） 14 まとめ 15 学習の展望 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IB						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちににとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究ガイダンス 2 各論・個別の芸術家や作品 3 欧米と日本1（フランス） 4 欧米と日本2（ベルギー） 5 欧米と日本3（ドイツ） 6 欧米と日本4（オーストリア） 7 欧米と日本5（イギリス） 8 欧米と日本6（アメリカ） 9 欧米と日本7（スペイン） 10 欧米と日本8（イタリア） 11 欧米と日本9（日本） 12 世紀末文化・芸術の射程 13 比較文化の成果と意義 14 研究の展望 15 総合 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIA						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 授業概要と成績評価基準の説明 2回 『北京バイオリン』の背景（現代中国の巨大な社会格差）解説 3回 『北京バイオリン』鑑賞 4回 『北京バイオリン』鑑賞後の解説、感想文記入 5回 『グッバイ、レーニン』の背景（1989年の東欧革命と1990年のドイツ統一）解説 6回 『グッバイ、レーニン』鑑賞後の解説、感想文記入 7回 『女はみんな生きている』の背景（現代フランスの移民問題、あるいはマグレブ差別）解説 8回 『女はみんな生きている』鑑賞後の解説、感想文記入 9回 『逆噴射家族』の背景（1980年代の日本の家族形態の変化、または家族の絆の危機）解説 10回 『逆噴射家族』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『ウォール街』の背景（1980年代のアメリカの金融資本主義醸成と拝金主義）解説 12回 『ウォール街』鑑賞 13回 『ウォール街』鑑賞後の解説、感想文記入 14回 『不適切な真実』の背景（現代世界を脅かす地球温暖化）解説 15回 『不適切な真実』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIB						
担当教員	柿沼 申明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 『Always 三丁目の夕日』の背景（1950年代後半の日本の高度成長期における地域社会の絆）解説 2回 『Always 三丁目の夕日』鑑賞後の解説、感想文記入 3回 『ブラッド・ダイヤモンド』の背景（1990年代アフリカ小国シエラレオネの内戦と資源搾取の状況）解説 4回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞 5回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞後の解説、感想文記入 6回 『猟奇的な彼女』の背景（現代韓国の社会事情）解説 7回 『猟奇的な彼女』鑑賞後の解説、感想文記入 8回 『モスクワは涙を信じない』の背景（1950年代後半～70年代後半のソ連の市民生活）解説 9回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞 10回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『中国の小さなお針子』の背景（1970年代初頭の文革期中国の下放政策と改革開放後の現代中国）解説 12回 『中国の小さなお針子』鑑賞後の解説、感想文記入 13回 『遠い夜明け』の背景（1980年代の南アフリカ共和国の人種隔離政策と人権闘争）解説 14回 『遠い夜明け』鑑賞 15回 『遠い夜明け』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIIA						
担当教員	植 朗子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	おとぎ話と怪談の比較文化論						
授業の概要	世界のおとぎ話や怪談を題材とする映画、絵本、小説、演劇を取り上げます。おとぎ話や怪談は、幻想文学、神話、伝説、メルヒェン、ファンタジー、説話などにみられますが、その作品が成立した社会背景や時代背景が影響しています。それらの資料をもとに、おとぎ話と怪談を比較文化の観点から論じます。映像資料を視聴しますが、主にドイツ語圏と日本語圏の作品を中心に、北欧やロシアの作品も取り上げる予定です。						
到達目標	おとぎ話や怪談が生まれた社会的な背景や文化的背景について学びます。それらのジャンルについて正確な知識を身に付けるとともに、世界のさまざまな地域、色々な時代に誕生したおとぎ話・怪談の文化的な意義について、それぞれが論じることができるようになって下さい。						
授業計画	第1回 主旨説明 第2回 日本のアニメと現代のおとぎ話—『天空の城ラピュタ』 第3回 囚われの姫—「人魚姫」①アンデルセンの絵本 第4回 囚われの姫—「人魚姫」②派生作品『崖の上のポニョ』 第5回 囚われの姫—「人魚姫」③派生作品『カリオストロの城』 第6回 囚われの姫—「ラプンツェル」と「いばら姫」グリム童話 第7回 囚われの姫—『ブラザーズグリム』 第8回 囚われた男—「カエルの王様」グリム童話と『紅の豚』 第9回 囚われた男—『コンスタンティン』 第10回 世界のファンタジー・怪談①ロシア 第11回 世界のファンタジー・怪談②イギリス 第12回 世界のファンタジー・怪談③北欧 第13回 日本の怪談①古典 第14回 日本の怪奇短編小説②現代 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	テスト60% 平常点40%						
教科書	なし（プリントを配布します）。						
参考書	特になし。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIIB						
担当教員	植 朗子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「美」と「醜悪」の比較文化論						
授業の概要	小説・映画・アニメーション・オペラ・演劇・絵画などに登場する「美女」と「美」を題材に、「美」にまつわる文化的な背景について取り上げます。古今東西、「美」と「醜悪」をテーマとする芸術論、芸術作品は数多くありますが、何を美の基準とするかは、その時代、地域、文化的な諸要素に左右されます。「美」と「醜悪」について文化史的な面から論じます。						
到達目標	「美女」と「美」にかんする諸作品を通じて、美の基準どのように描かれているか検証します。またその背景となる様々な文化の比較と、その諸相について明らかにします。						
授業計画	第1回 主旨説明 第2回 「美」と「醜悪」の定義 第3回 絵画・物語の中の「美女」 第4回 絵画・物語の中の「美」 第5回 ミュージカル『サロメ』 第6回 オペラ『カルメン』 第7回 美しい生き物、空想上の生物 第8回 醜い生き物、空想上の生物 第9回 『ハリーポッター』 第10回 美しい魔物 第11回 「美」と悪 第12回 「醜悪」と善 第13回 人形愛とロボット 第14回 完全なる美 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	テスト60% 平常点40%						
教科書	なし（プリントを配布します）。						
参考書	特になし。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IVA						
担当教員	光田 和伸						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「花」と節句						
授業の概要	御ひな祭りと桃の花、端午の節句と菖蒲など、節句のお祝いには特別の花との結びつきがみられます。その意味をたずねて、起源と発展を考えてみます。						
到達目標	花が人間の生活になぜ必要であるのか、その古代からのメッセージを感じ取れるようになること。						
授業計画	1 はじめに 七草粥とよもぎ餅 2 端午の節句 (5月5日) ①「菖蒲を葺く」という行事 3 端午の節句 ②「しょうぶ」と「あやめ」 4 端午の節句 ③「あやめ」「はなしょうぶ」「かきつばた」と古典文学 5 七夕 (7月7日) ①中国の七夕と日本の七夕 6 七夕 ②梶の葉と短冊 露で墨をするのはなぜ？ 7 七夕 ③七夕はだれのための行事か 8 お盆 盆花と供物の歴史 9 重陽 (9月9日) ①なぜ菊の花を飾るのか 10 重陽② 日本の菊が来た道 11 重陽③ 日本に根付かなかった節句 12 クリスマスの花① 「ひいらぎ」と「やどりぎ」の歴史 13 クリスマスの花② 「ポインセチア」そのほか 14 上巳の節句 (ひな祭り) ①なぜ桃の花を飾るのか 15 上巳の節句②ひな飾りのいろいろ						
授業外における学習 (準備学習の内容)	とくに必要ないが、その都度指示することがあります。						
授業方法	講義形式で行います。						
評価基準と評価方法	平常点とレポートを併用する予定です。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	「神の木」 (新潮社)						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IVB						
担当教員	光田 和伸						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	産屋（うぶや）と喪屋（もや）						
授業の概要	病院で産まれて病院で死ぬ。いまではあたりまえようになったこの習慣も、あんがい最近の成立です。大都市はべつとして、60年前まで、ひとは自宅で産まれ自宅で死を迎えました。さらにもっと昔は、自宅の外部に、そのための仮の建物を作ることもふつうに行われていたようです。そこではさまざまな禁忌（タブー）や習俗がありました。						
到達目標	生誕と死去の作法をたどりなおし、その重さをもういちど確かなものにします。						
授業計画	1 はじめに 産屋とはなにか 2 古典のなかの産屋 民俗遺産として残る産屋 3 産屋でのふるまい① 出産まで 4 産屋でのふるまい② 出産 5 産屋でのふるまい③ 産後から産屋を出るまで 6 新生児からお宮参りまで 7 育児の習俗① 8 育児の習俗② 9 育児の習俗③ 10 喪屋とはなにか 11 古典のなかの喪屋 民俗遺産として残る喪屋 12 喪屋でのふるまい① 13 喪屋でのふるまい② 14 葬儀と日常への復帰 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	その都度、参考文献を指示して、予習をもとめることがあります。						
授業方法	講義形式を基本として行いますが、一部、演習形式を取り入れることがあります。						
評価基準と評価方法	平常点とレポートを併用します。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	吉野裕子全集（人文書院） 日本産育習俗資料集成（第一法規出版）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VA						
担当教員	西川 純司						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告活動の理解						
授業の概要	<p>広告活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告を受け取る側において、それがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけています。講義では、こうした広告活動を理解するために必要な、広告の定義や分類、広告計画のインプットからアウトプットの過程、さらには広告関連の法規や規制などの基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告などを見ながら解説していきたいと思います。</p>						
到達目標	<p>受講することで、広告の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができます。実際の広告物を専門用語を使って分析し、体系的に説明できるようになることを目指します。また、グループワークを通じて、自分で考え、発言し、議論する力が鍛えられます。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 広告とは何か 3 マーケティング計画と広告 4 広告主と広告会社の組織構造 5 広告計画の構造と調査 6 広告戦略の立案 7 広告予算の決定方法 8 広告表現の計画 9 広告媒体の計画 10 ブランド・コミュニケーション 11 広告関連の法規と規制 12 インターネット広告 13 課題レポート検討会 14 課題レポート発表会 15 まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業の前後に参考書を読んでおくことで理解が深まります。また、簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。日常的に広告を意識するようになっておくことで、レポート作成に役立ちます。</p>						
授業方法	<p>講義を中心としますが、テレビCMなどの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。</p>						
評価基準と評価方法	<p>期末レポート 70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。</p>						
教科書	<p>毎回プリントを配布します。</p>						
参考書	<p>前期 『現代広告論 [新版]』、岸志津江・田中洋・嶋村和恵、有斐閣、ISBN978-4-641-12356-4</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VB						
担当教員	西川 純司						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	コミュニケーションとしての広告						
授業の概要	本講義では、広告がコミュニケーションのひとつのかたちであることを理解したうえで、広告を制作する体験をしてもらいます。まず、広告をつくるためにも、今日の広告がおかれている環境を「消費」と「まち（場所・メディア）」という観点から考えてみます。その後、広告が「なにを」「どのように」伝えるものなのかを、実際の広告を分析することで、学びます。これらを踏まえたうえで、最後に、簡単な広告をつくることに挑戦してもらいます。授業の進め方として、毎回テーマに沿ったかたちで講義を行うだけでなく、文章を読んだり映画鑑賞したうえでグループで議論をする機会も設けます。						
到達目標	受講することで、広告の本質およびその現況についての理解が深まります。また、他者の文章を正確に読解したり、映画の内容を読み解くなかで、それらに対する自分の考え方をまとめ、伝え、他の受講生と議論する力が向上します。さらに、自分で簡単な広告をつくるできるようになります。広告制作を通して、情報を取捨選択し、まとめるだけでなく、自分のアイデアを発信するためのスキルが鍛えられます。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 広告と消費(1)：若者の消費 3 広告と消費(2)：「消費しない若者」論 4 広告と消費(3)：ディスカッション 5 広告とまち(1)：映画鑑賞『トウルーマン・ショー』 6 広告とまち(2)：映画鑑賞『トウルーマン・ショー』 7 広告とまち(3)：ディスカッション 8 広告を知る(1)：伝え方を学ぶ 9 広告を知る(2)：広告のコンセプトをつかむ 10 広告を知る(3)：広告の表現方法を学ぶ 11 広告をつくる(1)：広告のコンセプトを決める 12 広告をつくる(2)：広告の表現方法を決める 13 広告をつくる(3)：広告を完成させる 14 制作課題発表会 15 まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。日常的に広告を意識するようにしておくこと、制作課題に役立ちます。						
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMや映画などの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。						
評価基準と評価方法	制作課題 70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門A						
担当教員	上久保 真理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	美術の歴史や技法の基礎的な知識に触れる。						
授業の概要	美術とはどんなもの？何のためのもの？改めて問われると、わたしたちは意外に美術について知らないことに気付く。この授業では美術の歴史の概略を辿りつつ、美術制作の基礎に触れることを目指す。長い歴史の中で、それぞれの文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じよう。						
到達目標	美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じようとする姿勢を養う。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 恋人の面影 第3回 輪郭を取る 第4回 実在しないものを描く（於コンピュータ室） 第5回 キマイラ（於コンピュータ室） 第6回 形づくる1-粘土成型- 第7回 形づくる2-着色など- 第8回 遠近法という発明 第9回 写し取る 第10回 アナモルフォーズ1-グリッドの応用- 第11回 アナモルフォーズ2-デフォルメする- 第12回 アナモルフォーズ3-仕上げ- 第13回 痕跡と記録 第14回 身体軌跡をとらえる 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみることに。また授業に興味を持ったことさらに掘り下げて調べてみることに。授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める。スライド、DVDなどの使用。希望により学外演習なども含む。個人もしくはグループ単位での発表や、コンピュータ室での作業もあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門B						
担当教員	上久保 真理						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の美術の歴史や技術の基礎的な知識に触れる。						
授業の概要	マンガやアニメなど、日本の美術が海外で人気だ。でも、わたしたちはそのルーツについて意外に知らないことが多い。この授業では日本美術の歴史や技法の基礎的知識の一端に触れることを目指す。長い歴史や文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じよう。						
到達目標	日本の美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じようとする姿勢を養う。						
授業計画	第1回 絵巻の世界―物語を動かす― 第2回 キャラクターを作る―記号化する― (於コンピュータ室) 第3回 アニメーションを作る 1―描く― (於コンピュータ室) 第4回 アニメーションを作る 2―動かす― (於コンピュータ室) 第5回 水墨画の伝来 第6回 墨で描く 1―構図― 第7回 墨で描く 2―仕上げ― 第8回 琳派の系譜 第9回 ステンシル 1―型紙を作る― 第10回 ステンシル 2―刷る― 第11回 西洋と日本 第12回 マンガの手法 第13回 日本の現代美術 第14回 自由制作1 第15回 自由制作2						
授業外における学習(準備学習の内容)	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみる。また授業に興味を持ったことさらに掘り下げて調べてみる。授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める。スライド、DVDなどの使用。希望により学外演習なども含む。個人もしくはグループ単位での発表やコンピュータ室での作業もあり。						
評価基準と評価方法	平常点(毎回のコメントを含む)30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学入門A/日本文学入門I						
担当教員	石原 のり子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。文学史だけでなく、我が国の文学が形成される背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。						
授業の概要	前期は、古代から中世までの文学作品を対象とする。						
到達目標	総合文芸学科で学ぶために必要となる、日本文学の基礎を学ぶ。						
授業計画	<p>第一回：ガイダンス 授業で取り扱う作品の概要を学ぶ</p> <p>第二回：神話の世界 取り上げる作品：『日本書紀』など 我が国最初の正史である『日本書紀』を取り上げ、我が国の成り立ちの神話について学ぶ。</p> <p>第三回：和歌の発展 取り上げる作品：『万葉集』 漢字の伝来により、それまでは語りつぐことにより遺されていた言葉（歌謡なども含む）が、万葉仮名を使って表現されるようになったことを学ぶ。またこの頃になると、専門歌人とも言うべき人々が現れた。しかし、当時の公的文学はあくまでも漢詩であり、『懐風藻』をはじめ、多くの漢詩集が編まれたことを知る。</p> <p>第四回：公的文学としての和歌 取り上げる作品：『古今和歌集』 遣唐使の廃止により、国風文化が花開く。天皇の勅命により、やまとうたを集めた初の和歌集『古今和歌集』が編纂される。これにより、我が国の公的文学は漢詩文から和歌へと変容を遂げる。</p> <p>第五回：映像で見る『万葉集』の世界</p> <p>第六回：かな文字の普及 取り上げる作品：『蜻蛉日記』 仮名文字が生まれ、女性も日記を書くようになる。（依然として男性貴族の日記は漢文体で書かれていたことも確認する）階級を異にする夫との結婚によって生じた苦悩を赤裸々に描いた『蜻蛉日記』は、後世の文学に大きな影響を与えた。</p> <p>第七回：物語の誕生 取り上げる作品：『竹取物語』 『源氏物語』に「物語の出来はじめの祖」と書かれた『竹取物語』、和歌を中心に据えて物語を構成する歌物語など、以後の物語文学に大きな影響を与えた作品を概観する。</p> <p>第八回：女流文学の隆盛 取り上げる作品：『枕草子』 女流日記文学から、平安時代の宮廷文化、貴族の生活などを学ぶ。『源氏物語』の生まれる土壌となった、宮廷サロンについても学ぶ。</p> <p>第九回：物語の完成 取り上げる作品：『源氏物語』 我が国の文学史上屈指の傑作である『源氏物語』について学ぶ。プロット、心理描写、修辞などに優れ、これ以後、本作品の影響を受けていない文学はないと言っても過言ではない。平安後期から鎌倉時代にかけて、『源氏物語』に触発された、中世王朝物語が数多く生まれたことも学ぶ。</p> <p>第十回：映像で見る『源氏物語』の世界</p> <p>第十一回：隠者の文学 取り上げる作品：『方丈記』『徒然草』 仮名と漢字の混ざった和漢混濁文による随筆。乱世に生きた鴨長明の描き出す無常観は、その時代の空気を反映していると言える。一方、兼好法師は「心に思ふまま」を綴る。軽妙洒脱で皮肉のきいた作品の妙味を味わう。</p> <p>第十二回：軍記物語の世界 取り上げる作品：『平家物語』『太平記』 前者は琵琶法師、後者は太平記読みによって、庶民にも享受された。能楽や浄瑠璃など、後世の芸能にも大きな影響を与えた。</p>						

授業計画	第十三回：芸能の発展 取り上げる作品：能楽（『葵上』『敦盛』など） 世阿弥によって大成された能楽は、往古の文学を摂取し、花開いた。古典作品を題材にした作品を取り上げる。 第十四回：能楽鑑賞 第十五回 まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	古代から中世までの文学史を概観するため、授業で取り上げる作品や事柄はおのずと限られてくる。授業内の学習だけで、わが国の文学史の詳細を把握することは難しい。よって、取り上げる作品・時代の背景の予習、授業後、授業中に紹介した作品や資料についての復習、および各自の興味や専門に関わる事柄を調べるのが求められる。
授業方法	講義形式で行う。
評価基準と評価方法	平常点（小テスト・感想カードを含む）40%、期末試験60%
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学入門B／日本文学入門II						
担当教員	藤原 美佳						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。 文学史だけでなく、我が国の文学が形成される背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。						
授業の概要	後期は、近世から現代までの文学作品を対象とする。						
到達目標	総合文芸学科で学ぶために必要となる、日本文学の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス—近世から現代への流れ 第2回 文学の大衆化—写本の時代から版本の時代へ 第3回 元禄文学—井原西鶴、近松門左衛門など 第4回 俳諧文学—松永貞徳、松尾芭蕉など 第5回 近世中後期の小説の系譜—上田秋成、曲亭馬琴 第6回 近世から近代へ—坪内逍遙、二葉亭四迷 第7回 日清・日露戦争の時代—尾崎紅葉、樋口一葉など 第8回 映像で見る『外科室』 第9回 明治から大正へ—自然主義と反自然主義 第10回 大正の文学 第11回 プロレタリア文学と芸術派 第12回 昭和十年代の文学 第13回 戦後の文学 第14回 近代詩—明治から大正まで 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	近世から現代までの流れを概観するため、授業で取り上げる作品や事柄はおのずと限られてくる。事前に取り上げる時代について予習しておく。また、授業中に紹介された参考文献などを中心に、授業に関わる文献を読み、さらに理解を深める。						
授業方法	講義形式で行う						
評価基準と評価方法	平常点（小テスト・感想カードを含む）40%、期末試験60%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IA／文芸講読A						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸の味わい						
授業の概要	<p>文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを実感してもらいたい。 文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった文化を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。</p> <p>ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術（画家たち、たとえばモネ・ドガ・ゴッホ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と文学（詩人・作家・演劇家・映画人・批評家たち）に関わるテキストを読みながら（そのプロセスで音楽性・音楽家にも触れることになる）（また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ）（テキスト形態は論説評論文だけでなく、詩や小説、随筆・手紙・映像等にまたがる）、様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。</p>						
到達目標	文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたり、という総合文芸学科ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。同時に、皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会えるはずです。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の学習状況・希望等によって修正・変更されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ヨーロッパ近現代の芸術家達 3 印象派と文学 4 印象派画家と文学者 5 印象派以降～現代美術と日本の芸術 6 印象派以降～現代美術と日本の文化 7 その他関連資料1（文芸） 8 その他関連資料2（文化） 9 ヨーロッパと日本の芸術家達 10 日本の文芸 11 日本の芸術 12 その他関連研究1（身辺の文芸） 13 その他関連研究2（身辺の文化） 14 まとめとレポート 15 反省・展開 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IB／文芸講読B						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸の味わい						
授業の概要	<p>文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを実感してもらいたい。 文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった文化を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。</p> <p>ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術（画家たち、たとえばモネ・ドガ・ゴッホ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と 文学（詩人・作家・演劇家・映画人・批評家たち）に関わるテキストを読みながら （そのプロセスで音楽性・音楽家にも触れることになる）（また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ） （テキスト形態は論説評論文だけでなく、詩や小説、随筆・手紙・映像等にまたがる）、 様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。</p>						
到達目標	<p>文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたり、という総合文芸学科ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。 同時に、皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会えるはずです。</p>						
授業計画	<p>後期授業前に再確認します。 以下は、常にヨーロッパの芸術・文化、美術・音楽・文学との関係において学びます。出席者の様子・意向に応じて下記内容が変更される場合があります。</p> <p>1回 全員で授業出発点の合意・話し合い 2回 文芸講読の価値と目標 3回 日本の画家（東山魁夷等）テキスト1（生涯） 4回 同 テキスト2（初期） 5回 同 テキスト3（中期） 6回 同 テキスト4（後期） 7回 同 テキスト5（最晩年） 8回 全員討議 9回 希望と状況により学外見学 10回 アンソロジー1（西洋・絵と言葉） 11回 同テキスト2（東洋・絵と言葉） 12回 同テキスト3（東西文化） 13回 討議・討論 14回 復習とレポート 15回 反省とまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIA/文芸講読C						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『シラノ・ド・ベルジュラック』を読む						
授業の概要	19世紀末フランスの耽美主義と古典的教養を融合させて、文学史上最大の人気者「鼻のシラノ」を生み出した、ロマンチック・ラブの最高傑作『シラノ・ド・ベルジュラック』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、時代背景、古典の影響など、多様な観点から批判的に読解する。						
到達目標	①テキストの漢字や語彙を学んで、文意を正しく把握し、上手に音読・朗読できるようになる。 ②テキストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの筋の通った分析や批評の文章が書けるようになる。						
授業計画	第1回 インタロダクション（授業の受け方、出席要件、評価方法、テキスト概説） 第2回 第一幕 第3回 第一幕、映画ビデオ 第4回 第二幕、漢字読み取りテスト 第5回 第二幕、映画ビデオ 第6回 第三幕、漢字読み取りテスト 第7回 第三幕、映画ビデオ 第8回 第四幕、漢字読み取りテスト 第9回 第四幕、映画ビデオ 第10回 第五幕、漢字読み取りテスト 第11回 第五幕、映画ビデオ 第12回 レポートの課題と書き方、漢字読み取りテスト 第13回 『シラノ』のロマンチック・ラブについて 第14回 シラノとソクラテス 第15回 まとめと展望、期末レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で講読するテキストの範囲を授業までに辞書等を調べながら読んで、疑問点を整理してこなければならない。						
授業方法	講読、教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら一緒に読んでゆく。1幕ごとに漢字の読み取りテストをし、映画『シラノ・ド・ベルジュラック』の対応箇所を観る。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、準備学習、音読・朗読、漢字テストの点数等による到達目標①の評価50% 期末レポートによる到達目標②の評価50%。						
教科書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（岩波文庫） エドモン・ロスタン著、鈴木信太郎・辰野隆訳						
参考書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（光文社古典新訳文庫） ロスタン著、渡辺守章訳						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIB／文芸講読D						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	エウリピデスの悲劇『メデシア』を読む						
授業の概要	ギリシア古典期の三大悲劇作家のうち、後世もっとも人気のあったエウリピデスの現存作品のうち、映画に舞台にと現代人に対してもとりわけ強烈な訴求力をもつ『メデシア』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、神話的背景等の多様な観点から批判的に読解する。						
到達目標	テキストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの筋の通った分析や批評の文章を書くことができるようになる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション（テキストおよびギリシア悲劇について） 第2回 プロロゴスとパロドス 第3回 第1エペイソディオン、第1スタシモン 第4回 第2エペイソディオン、第2スタシモン 第5回 第3エペイソディオン、第3スタシモン 第6回 第4エペイソディオン、第4スタシモン 第7回 第5エペイソディオン、第5スタシモン 第8回 第6エペイソディオン、第6スタシモン 第9回 エクソドス 第10回 ビデオで見る『メデシア』 第11回 レポートの課題と考察の観点について 第12回 メデシアはなぜ子殺しをしなければならなかったのか、あるいは殺したのか？ 第13回 『メデシア』のエクソドスについて 第14回 エウリピデスの「機械仕掛けの神（デウス・エクス・マーキナー）」について 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で読むテキストをあらかじめ自分でよく読んで疑問点を整理し、授業後にも読み返す、参考文献を読むなどの予習復習が必要。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘、受講生同士のディスカッションなどを交えながら、一緒に読んでゆく。						
評価基準と評価方法	予習・復習の状況、テキストの音読、受講生同士および教員とのディスカッションなど授業への参加度40%、学期末レポートの出来具合60%で評価する。						
教科書	『ギリシア悲劇Ⅲ』（ちくま文庫） エウリピデス著、松平千秋他訳、筑摩書房						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読ⅣA／文芸講読Ⅰ（アイ）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ルネサンスから18世紀までの西洋の音楽						
授業の概要	クラシック音楽を鑑賞するための基礎的な知識を習得する。そのために必要と思われる様々なテキスト（楽譜、楽曲の解説文を含む）を読み解いてゆく。視聴覚教材を毎回使用する。						
到達目標	音楽鑑賞のための基礎知識の習得						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 音楽史年表、音楽と儀礼 2) 近代西洋の音楽の特徴について考える、4声部の合唱と弦楽4重奏 3) ルネサンスと宗教改革 4) 前回のつづき 5) 舞曲 6) 組曲 7) ヴィヴァルディとモーツァルト 8) 前回のつづき 9) 演奏の場について考える 10) バロック文化 11) 協奏曲の歴史（1）ソナタ形式 12) 協奏曲の歴史（2） 13) バッハの音楽 14) モーツァルトの音楽 15) まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	AVセンターの教材を使って適宜音楽を聴く。						
授業方法	さまざまなテキストを読む。CDやVTRを用いての音楽鑑賞。						
評価基準と評価方法	平常点50%（小テストおよび小レポートを含む）、期末のレポート50%を原則とする。なお、受講態度の優れている者には、平常点を加点することがある。 *注記：「受講態度」というのは、出席点ではなく、予習・復習やテキストの理解の程度などのことです。なお、この科目では、2回以上連続で欠席しますとペナルティーが課せられます。						
教科書	講義が始まってから指定する						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IVB／文芸講読J（ジェイ）						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	19世紀から20世紀の西ヨーロッパの音楽と思想						
授業の概要	18世紀末から20世紀初頭にかけての西ヨーロッパの社会の変化が音楽芸術に及ぼした影響について学ぶとともに、ロマン派の音楽の特徴を学ぶ。あわせて、西洋思想と芸術との関係について考察する。						
到達目標	音楽芸術を鑑賞するために必要な基礎知識の習得。音楽と社会の関係について考えるための方法の習得。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 古典主義の思想と芸術 2) ルソーの芸術論 3) ベートーヴェンの生涯と音楽（1）交響曲 4) ベートーヴェンの生涯と音楽（2）ピアノ・ソナタ 5) ロマン主義の思想と芸術 6) シューベルト「魔王」 7) ベルリオーズ「幻想交響曲」 8) シューマン「トロイメライ」 9) ショパンの生涯と音楽 10) リスト「超絶技巧練習曲」 11) ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」 12) 表現主義の思想と芸術 13) マーラー「交響曲第五番」 14) シェーンベルクの生涯と音楽（1）後期ロマン主義 15) シェーンベルクの生涯と音楽（2）無調 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で紹介した音楽を自宅でも意識的に聴くようにすること。						
授業方法	講読形式を中心とし、音楽鑑賞も行う。						
評価基準と評価方法	毎回のレポート50点 期末レポート50点 合計100点満点で60点以上を合格とします。						
教科書	特に指定しません。毎回プリントを配布します。						
参考書	必要に応じて授業で紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VA／文芸講読K						
担当教員	村上 知彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	まんがと性別越境-「リボンの騎士」と少女まんがの展開						
授業の概要	現代の物語まんがは、文学とはまたちがった形でさまざまな主題を表現してきた。この講義では、戦後少女まんがの出発点ともいえる手塚治虫「リボンの騎士」を取り上げ、そこに表現された性別越境の主題を手がかりに、少女まんがにおけるその展開とまんが史の中での位置づけ、その後のまんが表現に与えた影響、さらにはまんがという表現の特質にまで考察を進めたい。作品の読解を中心に、多様な関連作品を解説、比較しながら進めるので、テキストを充分理解して授業に臨むことはもちろん、まんが研究への幅広い関心を持ち、紹介する作品についても可能なかぎり目を通すなど、授業への積極的参加を望みたい。						
到達目標	「リボンの騎士」を手がかりに、そこから多様に広がる手塚まんがの一貫した主題を知る。また「性別越境」という一つの主題がさまざまに展開する、現代少女まんがの表現の広がりを理解する。						
授業計画	(1) イントロダクション/ストーリー少女まんがの誕生 (2) 「リボンの騎士」を読む/1 (3) 「リボンの騎士」を読む/2 (4) 「リボンの騎士」論の諸相 藤本/中野/竹内の「リボンの騎士」論 (5) 「リボンの騎士」論の展開/1 押山の“ジェンダー表象”論(1) (6) 「リボンの騎士」論の展開/2 押山の“ジェンダー表象”論(2) (7) 「リボンの騎士」と宝塚歌劇/手塚治虫と宝塚 (8) 手塚まんがと性別越境/1 ロボットと人形 (9) 手塚まんがと性別越境/2 昆虫とクローン/母と少年 (10) 少女まんがの性別越境/1 ベルサイユのばら (11) 少女まんがの性別越境/2 雪の子/シュリンクス・パーン (12) 少女まんがの性別越境/3 風と木の詩/日出処の天子 (13) 少女まんがの性別越境/4 櫻の園/STAY/大奥 (14) 戦う少女たち BASARA/少女革命ウテナ (15) まとめ/まんがと性別表現						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: テキストは必ず事前に通読の上、授業計画に従って精読して授業に臨むこと。 授業後学習: 授業で取り上げた作品について、関心を持ったものを読んでみよう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート(60%)、提出物および平常点等(40%)						
教科書	「リボンの騎士・少女クラブ版」手塚治虫、講談社漫画文庫 ISBN4-06-260656-9						
参考書	「少女マンガ ジェンダー表象論」押山美知子、彩流社 ISBN4779112443 その他、授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VB／文芸講読L						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	まんがと批評-まんがの論じ方						
授業の概要	絵と言葉によってつづられる文芸の一形式であり、戦後日本の重要な文化でもあるまんがをめぐる多様な主題を論じた批評・研究を概観し、それらをふまえて、まんが作品を批評的に読み解く。指定テキストの他、受講者の希望するまんが作品もテキストとして取り上げ、それらの作品についての批評・研究などを参照しながら授業内での発表・討議をおこない、最終的には短い批評的文章を、各自レポートとして書き上げることを目指す。テキストをもとにした講義、および発表形式。何度か、課題等の提出を求める。						
到達目標	まんが作品を批評的に読み解く方法を学び、まんが作品に対する受講者自身による批評文を、レポートとして書き上げる。						
授業計画	(1) イントロダクション (2) まんがの論じ方/まんが批評小史 (3) まんがと批評/批評とは何か (4) コードとコンテキスト/物語のコード分析 (5) 作品講読1-1/課題・萩尾望都「トーマの心臓」 (6) 作品講読1-2 作者とタイトル (7) 作品講読1-3 書き出しと主人公 (8) 作品講読1-4 物語のコード (9) 作品講読1-5 描写と表現 (10) 作品講読2-1 (課題作品は授業中に決定) (11) 作品講読2-2 作者とタイトル (12) 作品講読2-3 書き出しと主人公 (13) 作品講読2-4 物語のコード (14) 作品講読2-5 描写と表現 (15) まとめ/作品分析のヒント						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：テキストは必ず事前に通読の上、授業計画に従って精読して授業に臨むこと。 授業後学習：毎回の学んだことをふまえて、自分自身の作品の読みとり方を文章化してみる。						
授業方法	講義および個人発表						
評価基準と評価方法	期末レポート(50%)、および発表・提出物・平常点等(50%)により総合的に評価する。						
教科書	「トーマの心臓」萩尾望都、小学館文庫 ISBN4-09-191013-0 その他、授業中に指示します。						
参考書	「増補 文学テキスト入門」前田愛、ちくま学芸文庫 ISBN4-480-08095-3 その他、授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIIA						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	西洋文芸と映画 ラディゲ『肉体の悪魔』とその映画表現の比較						
授業の概要	レーモン・ラディゲは、夭折（ようせつ）した天才作家である。彼が16～18歳のときに『肉体の悪魔』を書き、20歳で出版して、フランス文壇に一大センセーションを巻き起こし、同年、腸チフスで死んでしまう。作品は「フランス心理主義の伝統の再現」「古典主義的な美」などと評された。『肉体の悪魔』は3度、映画化された。1947年のフランス映画、1985年のオーストリア映画、1986年のイタリア映画（伊仏合作）。イタリア映画は原作の翻案で、舞台もパリからローマに移されている。オーストリア映画は入手不能なので、小説を読んだ後、他の2つの映画作品を鑑賞し、原作と比較してみたい。						
到達目標	文学テキストの読解と、その映像的解釈の鑑賞						
授業計画	第1回：単位認定の説明、ラディゲの生涯・20世紀初めのフランスに関する解説 第2回：p. 6-p. 26 輪読 第3回：p. 27-p. 47 輪読 第4回：p. 48-p. 68 輪読 第5回：p. 69-p. 89 輪読 第6回：p. 90-p. 110 輪読 第7回：p. 111-p. 131 輪読 第8回：p. 132-p. 152 輪読 第9回：p. 153-p. 173 輪読 第10回：p. 174-p. 194 輪読 第11回：p. 195-最後 輪読 第12回：フランス映画『肉体の悪魔』鑑賞 第13回：フランス映画『肉体の悪魔』鑑賞、仮レポート提出 第14回：イタリア映画『肉体の悪魔』鑑賞 第15回：イタリア映画『肉体の悪魔』鑑賞、添削後、仮レポート返却						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分で小説を読んでおくこと						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席率とレポート内容に基づき総合的に評価						
教科書	ラディゲ、中条省平訳『肉体の悪魔』（光文社古典新訳文庫）						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIIB						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文芸と映画 夏目漱石『それから』とその映画表現の比較						
授業の概要	漱石『それから』の舞台は、日露戦争勝利後の日本。西欧列強に追いつき、追い越せとばかり、国中がアクセクしているなか、親からの仕送りをもらい、朝食には紅茶とトーストを食べ、暇にまかせて英文書を読み漁る主人公の代助。優雅な高等遊民生活を送っていた彼だが、友人の妻を愛することによって運命が一変する。個人主義のなかった明治期日本で、個人的情念を貫いた結果、社会や家族制度によって個人がいかに押しつぶされていくかが、この小説のテーマである。1985年製作の森田芳光監督の映画化作品は、当時の社会風景と主人公の内的葛藤を、独特な映像センスで活写している。代助を演じる松田優作も味がある。						
到達目標	文学テキストの読解と、その映像的解釈の鑑賞						
授業計画	第1回：単位認定の説明、『それから』と日露戦争後の日本に関する解説 第2回：p. 5-p. 30 輪読 第3回：p. 31-p. 61 輪読 第4回：p. 62-p. 92 輪読 第5回：p. 93-p. 123 輪読 第6回：p. 124-p. 154 輪読 第7回：p. 155-p. 185 輪読 第8回：p. 186-p. 216 輪読 第9回：p. 217-p. 247 輪読 第10回：映画『それから』鑑賞 第11回：映画『それから』鑑賞 第12回：p. 245-p. 275 輪読 第13回：p. 276-p. 306 輪読、仮レポート提出 第14回：p. 307-最後 輪読 第15回：『それから』に関する評論の輪読、添削した仮レポート返却						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分で小説を読んでおくこと						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席率とレポート内容に基づき総合的に評価						
教科書	夏目漱石『それから』（新潮文庫）						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習I						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	文学・芸術の創造性と文化の諸相						
授業の概要	<p>文芸をめぐる諸問題を、以下の視点から検討してゆく。 分野：言語・文学—芸術（美術・音楽）—社会・思想—文化 時代：近代（18・19世紀）—現代（20・21世紀）を軸に 地域：フランスを中心に西洋・アメリカ—東洋・日本</p> <p>ここから広がる関連領域にどのような研究テーマの可能性があるかを紹介し、 数例の探究を経験した上で、出席者が各々関心をもっている事柄を手掛かりに研究発表をしてゆく。 その突き合わせによって、種々の研究内容・方法を学び、関連資料に接しながら、 全員がそれぞれ文学・芸術・文化に関する知見を深めて、 自らの研究課題を発掘し見直しつつ、より豊かな地平から探究してゆくことを目指す。</p>						
到達目標	身近な関心から出発し、視聴覚資料も見たり聞いたりしながら、様々な「見方・感じ方」に触れて、 関心と意識と知識を充実させ、広い視野を開拓してほしい。 出席者皆の感性・知性を重ねることで、思いもかけない楽しみや自分が変わるよろこびを たくさん発見できます。						
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の人数・状況等によって修正されることがある。 前期 1回 演習オリエンテーション 2～11回 4年生による研究発表と討論 12～15回 補足討論・関連資料研究・まとめ 見学授業を含む場合がある 後期 16回 演習ガイダンス 17～24回 3年生による研究発表と討論 25～30回 補足討論・関連資料研究 見学授業を含む場合がある						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点80%、レポート等20%						
教科書	授業内容に即した各種資料や参考書を配付・紹介する。						
参考書	日本の風景・西欧の景観 著 A.ベルク 篠田勝英訳（講談社）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習II						
担当教員	勝村 弘也						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	民俗学と歴史研究						
授業の概要	2年サイクルの授業計画に従っている演習。前期は、主として昔話の研究方法について学んだ後で、世界の生活文化について調べて行きます。後期は、歴史の社会史的研究方法について学びます。適宜、フィールドワークを行います。						
到達目標	自分でテーマを設定して、歴史を研究する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション、灘区と東灘区の史跡 (1) 2) 昔話の比較研究 (1)、フィールドワーク準備 3) 灘区と東灘区の史跡 (2)、フィールドワーク 4) 昔話の比較研究 (2) 5) 昔話の比較研究 (3) 6) 灘区と東灘区の史跡 (3)、フィールドワーク 7) 民話の構造 8) 世界の生活文化 (1) アジア、太平洋 9) 世界の生活文化 (2) アフリカ、南アメリカ 10) 世界の生活文化 (3) 地中海世界、西アジア 11) 世界の生活文化 (4) ヨーロッパ 12) 灘区と東灘区の史跡 (4)、フィールドワーク 13) フィールドワークの報告 14) 世界の生活文化 (5) ヨーロッパ 15) 前期のまとめと反省 16) 前期レポート提出、後期のフィールドワーク準備 17) 阿部謹也の著作を読む (1) 18) 阿部謹也の著作を読む (2) 19) フィールドワーク (詳細は未定) 20) 阿部謹也の著作を読む (3) 21) 死生観の歴史 (1) 22) 死生観の歴史 (2) 23) 死生観の歴史 (3) 24) フィールドワーク (詳細は未定) 25) 技術と人間 26) 科学技術と芸術 (1) 27) 科学技術と芸術 (2) 29) 科学技術と芸術 (3) 30) 後期のまとめと反省 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	特に発表に当たった時は、参考文献などを読み、決められた課題について適当な長さにまとめて印刷すること。簡単な課題については、口頭発表できるように知識を整理しておくこと。						
授業方法	学生による研究発表と討論を中心にした演習形式。簡単な課題は、全員に課されることがある。						
評価基準と評価方法	出席(単なる「出席」の意味ではなく、課題の発表、討論への参加が前提条件である)。テーマごとに割り当てられる研究発表(ここまでの項目で約60パーセント)。各学期末のレポート(約40パーセント)などを総合する。評価の比率については目安である。レポートに関しては加点されることがある。						
教科書							
参考書	毎回のよう授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習III／文芸第1演習IV						
担当教員	山田 道夫						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	神話と悲劇のヒーロー像、ヒロイン像をさぐる						
授業の概要	ギリシア神話や日本の神話のさまざまなトピックを比較文学的、文芸批評的に考察する。取り扱う主要なテキストはホメロス、ギリシア悲劇、古事記など。前期は「抑圧された女たちとカタルシス」という観点からオレスティア劇の「エレクトラ」について調べ、異なる作者の異なるエレクトラ像、オレスティス像がどのように造型されているかを考察し、後期はそれらと比較対照しながら、『古事記』やエウリピデスの『タウリケのイピゲネイア』『ヘレネー』に考察の範囲を拡げていく。						
到達目標	古代の文芸におけるヒーローやヒロインの姿をさぐってゆくという作業を通して、さまざまな文芸テキストを深く、また相互に比較して多面的に考察し、自分なりの筋の通った解釈や批評を組み立てることができる。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 イン트로ダクション、テキスト・参考文献概説</p> <p>第2回 オレスティア劇と「エレクトラ」</p> <p>第3回 アISKYロス「オレスティア」三部作の場合</p> <p>第4回 アISKYロス『供養する女たち』</p> <p>第5回 ソポクレス『エレクトラ』(1)</p> <p>第6回 ソポクレス『エレクトラ』(2)</p> <p>第7回 ソポクレス『エレクトラ』(3)</p> <p>第8回 エウリピデス『エレクトラ』(1)</p> <p>第9回 エウリピデス『エレクトラ』(2)</p> <p>第10回 エウリピデス『エレクトラ』(3)</p> <p>第11回 アリストテレス『詩学』(1)</p> <p>第12回 アリストテレス『詩学』(2)</p> <p>第13回 4回生による調査発表(1)</p> <p>第14回 4回生による調査発表(2)</p> <p>第15回 まとめと展望、レポート課題の説明</p> <p>後期</p> <p>第1回 『古事記』「沙本毘古と沙本毘売、前期レポート提出</p> <p>第2回 『古事記』「石之日売皇后の嫉妬」</p> <p>第3回 『古事記』「速総別王と女鳥王」</p> <p>第4回 エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(1)</p> <p>第5回 エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(2)</p> <p>第6回 エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(3)</p> <p>第7回 エウリピデス『ヘレネー』(1)</p> <p>第8回 エウリピデス『ヘレネー』(2)</p> <p>第9回 エウリピデス『ヘレネー』(3)</p> <p>第10回 アリストテレス『詩学』(1)</p> <p>第11回 アリストテレス『詩学』(2)</p> <p>第12回 3回生による調査発表とディスカッション(1)</p> <p>第13回 3回生による調査発表とディスカッション(2)</p> <p>第14回 3回生による調査発表とディスカッション(3)</p> <p>第15回 まとめと展望、後期レポート提出</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	シラバスを見て、各回の授業で取り上げるテキストや参考文献をあらかじめよく読み、問題点を整理しておくこと。						
授業方法	演習。あらかじめ自分で拾い出した問題点とそれについての解釈を提起しあい、議論する。4回生は前期、3回生は後期に、ひとり一度ずつまとまった研究発表を行う。						
評価基準と評価方法	準備学習と授業への参加度、取組みかたなどの平常点50%、学期末のレポート50%で評価する。						
教科書	授業時に指示する						

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習IV／文芸第1演習V						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	パトリック・ジュースキント『香水—ある人殺しの物語』を読む ヨーロッパの芳香と悪臭の文化史について考える						
授業の概要	<p>パトリック・ジュースキントは、ドイツの現代作家である。小説『香水—ある人殺しの物語』（1985）によって、ギュンター・グラスやミヤエル・エンデに次ぐ、ひさびさの世界的に著名なドイツ人作家に躍り出た。2006年にこの作品は映画化されているので、その映画作品も鑑賞する。</p> <p>また、ヨーロッパ中世以来の「香りの文化史」も研究していきたい。中世の都市をとりまく悪臭からどのように香料やハーブといった香りの文化が育成していき、1921年のココ・シャネルの「No.5」という香水の世界的流行に発展していったのか。後期には、シャネルの教唆的な人生についても触れたい。</p> <p>香りについての文化史、香水についての歴史に関する論文をもってくるので、担当者はこれを要約発表してほしい。以上とは別に、受講者に毎回1名、研究発表をしてもらう。3回生は前期後期それぞれ1回、4回生は1年1回が義務となる。</p>						
到達目標	人文学の専門的な領域の学び						
授業計画	<p>第1回：授業概要・成績評価の説明。ジュースキントと小説のについて概説。研究発表者の割り振り。</p> <p>第2～3回：『香水—ある人殺しの物語』を一緒に読む。</p> <p>第4～15回：1回に1人が研究発表、1人が小説の要約発表、1人が渡された論文の要約発表。 （『モモ』を読了した時点で映画を鑑賞）</p> <p>第16～18回：『にんげんの歴史—嗅覚と社会的想像力』を一緒に読む。</p> <p>第19～30回：1回に1人が研究発表、1人が『匂いの魔力—香りと匂いの文化史』の要約発表、1人が渡された論文の要約発表。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の順番でなくとも、小説を読み上げること。 研究発表のときは、よく下調べをすること。						
授業方法	初めはテキストの回読。 慣れてきたら個人研究発表、テキストの要約発表、論文の要約発表の3本立て。						
評価基準と評価方法	出席率、授業に対する熱意、個人発表内容、レポート内容に基づき総合的に評価。						
教科書	パトリック・ジュースキント、池内紀訳『香水—ある人殺しの物語』（文春文庫、2003年）						
参考書	アラン・コルバン、山田・鹿島訳『にんげんの歴史—嗅覚と社会的想像力』（藤原書店、1990年） アニック・グレ、小泉敦子訳『匂いの魔力—香りと匂いの文化史』（工作舎、2000年）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習VI／文芸第1演習VII						
担当教員	村上 知彦						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	現代メディア文化の研究						
授業の概要	文学、映画、テレビ、ラジオ、音楽、まんが、アニメ、ゲーム、ファッション、広告、インターネットなど現代のメディア文化全般について、それらがメディアによってどのように表現され、時代や社会とどのように関わってきたかを考察する。メディア研究の理論と方法、メディア文化に関わる主題をみつける視点を、文献や先行研究を通して身につける。 授業は、前期はメディア研究の基礎的テキストの講読および課題についての個人またはグループ発表、後期は各人の関心のある、メディア文化に関わるテーマについての個人発表と発展テキストの講読、および卒論計画の検討と発表によって進める。						
到達目標	メディア研究の基礎的テキストの講読を通して、現代のメディア文化の多様な広がりを知る。メディア文化に関わる先行研究や文献の講読を手がかりに、私たちの暮らしや文化とメディアとのかかわりを考察し、卒業研究の主題の発見へとつなげる。						
授業計画	<p>・以下は受講生による議論の広がりや授業の進展等により、随時修整される可能性がある。</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) イントロダクション/メディア研究の理論と方法 (2) テキスト概説/キャラクターとは何か (3) テキスト概説と発表者割り振り (4) テキスト講読・1キャラクターの現在 (5) テキスト講読・2「コンテンツ産業」論の問題点 (6) テキスト講読・3キャラクターの成り立ち (7) テキスト講読・4キャラクターの構造 (8) テキスト講読・5日本型キャラクタービジネス (9) テキスト講読・まとめとディスカッション (10) ～(14) 選択課題につき発表とディスカッション (15) まとめ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> (16) イントロダクション/メディア文化研究の意義と展望 (17) ～(18) 後期テキスト(未定)講義と発表者割り振り (19) ～(23) 個人発表とコメント、およびテキスト講読と関連講義 (24) ～(28) 4年卒論発表への討論参加・卒論テーマの検討 (29) ～(30) レポート指導とまとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：指示した文献の精読、発表の準備などを十分に行った上で授業に臨むこと。 授業後学習：配布資料、レジュメ等を整理し、自分自身の関心にひきつけて考えをまとめてみる。授業で紹介した参考文献、作品資料などのうち、関心を持ったものには積極的に目を通す。						
授業方法	学生による発表と討論を中心にした演習形式						
評価基準と評価方法	発表内容、授業への参加度、提出物等により総合的に評価する。						
教科書	「キャラクターとは何か」小田切博、筑摩書房(ちくま新書) ISBN978-4-480-06531-5 その他、授業中に指示します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習I						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	文学・芸術の創造性と文化の諸相						
授業の概要	<p>文芸をめぐる諸問題を、以下の視点から検討してゆく。 分野：言語・文学—芸術（美術・音楽）—社会・思想—文化 時代：近代（18・19世紀）—現代（20・21世紀）を軸に 地域：フランスを中心に西洋・アメリカ—東洋・日本</p> <p>ここから広がる関連領域にどのような研究テーマの可能性があるかを紹介し、 数例の探究を経験した上で、出席者が各々関心をもっている事柄を手掛かりに研究発表をしてゆく。 その突き合わせによって、種々の研究内容・方法を学び、関連資料に接しながら、 全員がこの研究領域に関する知見を深めて、 自らの研究課題を発掘し見直しつつ、より豊かな地平から探究してゆくことを目指す。</p>						
到達目標	身近な関心から出発し、視聴覚資料も見たり聞いたりしながら、様々な「見方・感じ方」に触れて、 関心と意識と知識を充実させ、広い視野を開拓してほしい。 出席者皆の感性・知性を重ねることで、思いもかけない楽しみや自分が変わるよろこびを たくさん発見できます。						
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の人数・状況等によって修正されることがある。 前期 1回 演習オリエンテーション 2～11回 4年生による研究発表と討論 12～15回 補足討論・関連資料研究・まとめ 見学授業を含む場合がある 後期 16回 演習ガイダンス 17～24回 3年生による研究発表と討議 25～30回 補足討論・関連資料研究 見学授業を含む場合がある						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点80%、レポート等20%						
教科書	授業内容に即した各種資料や参考書を配付・紹介する。						
参考書	日本の風景・西欧の景観 著 A.ベルク 篠田勝英訳(講談社)						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習II						
担当教員	勝村 弘也						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	民俗学と歴史研究						
授業の概要	2年サイクルの授業計画に従っている演習。前期は、主として昔話の研究方法について学んだ後で、世界の生活文化について調べて行きます。後期は、歴史の社会史的研究方法について学びます。適宜、フィールドワークを行います。						
到達目標	自分でテーマを設定して、歴史を研究する。						
授業計画	1) オリエンテーション、灘区と東灘区の史跡(1) 2) 昔話の比較研究(1)、フィールドワーク準備 3) 灘区と東灘区の史跡(2)、フィールドワーク 4) 昔話の比較研究(2) 5) 昔話の比較研究(3) 6) 灘区と東灘区の史跡(3)、フィールドワーク 7) 民話の構造 8) 世界の生活文化(1) アジア、太平洋 9) 世界の生活文化(2) アフリカ、南アメリカ 10) 世界の生活文化(3) 地中海世界、西アジア 11) 世界の生活文化(4) ヨーロッパ 12) 灘区と東灘区の史跡(4)、フィールドワーク 13) フィールドワークの報告 14) 世界の生活文化(5) ヨーロッパ 15) 前期のまとめと反省 16) 前期レポート提出、後期のフィールドワーク準備 17) 阿部謹也の著作を読む(1) 18) 阿部謹也の著作を読む(2) 19) フィールドワーク(詳細は未定) 20) 阿部謹也の著作を読む(3) 21) 死生観の歴史(1) 22) 死生観の歴史(2) 23) 死生観の歴史(3) 24) フィールドワーク(詳細は未定) 25) 技術と人間 26) 科学技術と芸術(1) 27) 科学技術と芸術(2) 29) 科学技術と芸術(3) 30) 後期のまとめと反省						
授業外における学習(準備学習の内容)	特に発表に当たった時は、参考文献などを読み、決められた課題について適当な長さにまとめて印刷すること。簡単な課題については、口頭発表できるように知識を整理しておくこと。						
授業方法	学生による研究発表と討論を中心とした演習形式。簡単な課題は、全員に課されることがある。						
評価基準と評価方法	出席(単なる「出席」の意味ではなく、課題の発表、討論への参加が前提条件である)。テーマごとに割り当てられる研究発表(ここまでの項目で約60パーセント)。各学期末のレポート(約40パーセント)などを総合する。評価の比率については目安である。レポートに関しては加点されることがある。						
教科書							
参考書	毎回のよう授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習III／文芸第2演習IV						
担当教員	山田 道夫						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	神話と悲劇のヒーロー像、ヒロイン像をさぐる						
授業の概要	ギリシア神話や日本の神話のさまざまなトピックを比較文学的、文芸批評的に考察する。取り扱う主要なテキストはホメロス、ギリシア悲劇、古事記など。前期は「抑圧された女たちとカタルシス」という観点からオレスティア劇の「エレクトラ」について調べ、異なる作者の異なるエレクトラ像、オレステス像がどのように造型されているかを考察し、後期はそれらと比較対照しながら、『古事記』やエウリピデスの『タウリケのイピゲネイア』『ヘレネー』に考察の範囲を拡げていく。						
到達目標	古代の文芸におけるヒーローやヒロインの姿をさぐってゆくという作業を通して、さまざまな文芸テキストを深く、また相互に比較して多面的に考察し、自分なりの筋の通った解釈や批評を組み立てることができる。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 イン트로ダクション、テキスト・参考文献概説</p> <p>第2回 オレスティア劇と「エレクトラ」</p> <p>第3回 アISKYロス「オレスティア」三部作の場合</p> <p>第4回 アISKYロス『供養する女たち』</p> <p>第5回 ソポクレス『エレクトラ』(1)</p> <p>第6回 ソポクレス『エレクトラ』(2)</p> <p>第7回 ソポクレス『エレクトラ』(3)</p> <p>第8回 エウリピデス『エレクトラ』(1)</p> <p>第9回 エウリピデス『エレクトラ』(2)</p> <p>第10回 エウリピデス『エレクトラ』(3)</p> <p>第11回 アリストテレス『詩学』(1)</p> <p>第12回 アリストテレス『詩学』(2)</p> <p>第13回 4回生による調査発表(1)</p> <p>第14回 4回生による調査発表(2)</p> <p>第15回 まとめと展望、レポート課題の説明</p> <p>後期</p> <p>第1回 『古事記』「沙本毘古と沙本毘売、前期レポート提出</p> <p>第2回 『古事記』「石之日売皇后の嫉妬」</p> <p>第3回 『古事記』「速総別王と女鳥王」</p> <p>第4回 エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(1)</p> <p>第5回 エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(2)</p> <p>第6回 エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』(3)</p> <p>第7回 エウリピデス『ヘレネー』(1)</p> <p>第8回 エウリピデス『ヘレネー』(2)</p> <p>第9回 エウリピデス『ヘレネー』(3)</p> <p>第10回 アリストテレス『詩学』(1)</p> <p>第11回 アリストテレス『詩学』(2)</p> <p>第12回 3回生による調査発表とディスカッション(1)</p> <p>第13回 3回生による調査発表とディスカッション(2)</p> <p>第14回 3回生による調査発表とディスカッション(3)</p> <p>第15回 まとめと展望、後期レポート提出</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	シラバスを見て、各回の授業で取り上げるテキストや参考文献をあらかじめよく読み、問題点を整理しておくこと。						
授業方法	演習。あらかじめ自分で拾い出した問題点とそれについての解釈を提起しあい、議論する。4回生は前期、3回生は後期に、ひとり一度ずつまとめた研究発表を行う。						
評価基準と評価方法	準備学習と授業への参加度、取組みかたなどの平常点50%、学期末のレポート50%で評価する。						
教科書	授業時に指示する						

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習IV／文芸第2演習V						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	パトリック・ジュースキント『香水—ある人殺しの物語』を読む ヨーロッパの芳香と悪臭の文化史について考える						
授業の概要	<p>パトリック・ジュースキントは、ドイツの現代作家である。小説『香水—ある人殺しの物語』（1985）によって、ギュンター・グラスやミヤエル・エンデに次ぐ、ひさびさの世界的に著名なドイツ人作家に躍り出た。2006年にこの作品は映画化されているので、その映画作品も鑑賞する。</p> <p>また、ヨーロッパ中世以来の「香りの文化史」も研究していきたい。中世の都市をとりまく悪臭からどのように香料やハーブといった香りの文化が育成していき、1921年のココ・シャネルの「No.5」という香水の世界的流行に発展していったのか。後期には、シャネルの教唆的な人生についても触れたい。</p> <p>香りについての文化史、香水についての歴史に関する論文をもってくるので、担当者はこれを要約発表してほしい。以上とは別に、受講者に毎回1名、研究発表をしてもらう。3回生は前期後期それぞれ1回、4回生は1年1回が義務となる。</p>						
到達目標	人文学の専門的な領域の学び						
授業計画	<p>第1回：授業概要・成績評価の説明。ジュースキントと小説のについて概説。研究発表者の割り振り。</p> <p>第2～3回：『香水—ある人殺しの物語』を一緒に読む。</p> <p>第4～15回：1回に1人が研究発表、1人が小説の要約発表、1人が渡された論文の要約発表。 （『モモ』を読了した時点で映画を鑑賞）</p> <p>第16～18回：『にのいの歴史—嗅覚と社会的想像力』を一緒に読む。</p> <p>第19～30回：1回に1人が研究発表、1人が『匂いの魔力—香りと匂いの文化史』の要約発表、1人が渡された論文の要約発表。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の順番でなくとも、小説を読み上げること。 研究発表のときは、よく下調べをすること。						
授業方法	初めはテキストの回読。 慣れてきたら個人研究発表、テキストの要約発表、論文の要約発表の3本立て。						
評価基準と評価方法	出席率、授業に対する熱意、個人発表内容、レポート内容に基づき総合的に評価。						
教科書	パトリック・ジュースキント、池内紀訳『香水—ある人殺しの物語』（文春文庫、2003年）						
参考書	<p>アラン・コルバン、山田・鹿島訳『にのいの歴史—嗅覚と社会的想像力』（藤原書店、1990年）</p> <p>アニック・グレ、小泉敦子訳『匂いの魔力—香りと匂いの文化史』（工作舎、2000年）</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習VI／文芸第2演習VII						
担当教員	村上 知彦						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	現代メディア文化の研究						
授業の概要	文学、映画、テレビ、ラジオ、音楽、まんが、アニメ、ゲーム、ファッション、広告、インターネットなど現代のメディア文化全般について、それらがメディアによってどのように表現され、時代や社会とどのように関わってきたかを考察する。メディア研究の理論と方法、メディア文化に関わる主題をみつける視点を、文献や先行研究を通して身につける。 授業は、前期はメディア研究の基礎的テキストの講読および各自の卒論テーマに関する個人発表、後期は発展テキストの講読によって進める。						
到達目標	メディア研究の基礎的テキストの講読を通して、現代のメディア文化の多様な広がりを知る。メディア文化に関わる先行研究や文献の講読を手がかりに、私たちの暮らしや文化とメディアとのかかわりを考察し、卒業研究の主題の考察へと生かす。						
授業計画	<p>・以下は、受講生による議論の広がりや授業の進展等により、随時修整される可能性がある。</p> <p>前期</p> <p>(1) イントロダクション/メディア研究の理論と方法 (2) テキスト概説/キャラクターとは何か (3) テキスト概説と発表者割り振り (4) テキスト講読・1キャラクターの現在 (5) テキスト講読・2「コンテンツ産業」論の問題点 (6) テキスト講読・3キャラクターの成り立ち (7) テキスト講読・4キャラクターの構造 (8) テキスト講読・5日本型キャラクタービジネス (9) テキスト講読・まとめとディスカッション (10) ～(14) 卒論テーマに関する個人発表とディスカッション (15) まとめ</p> <p>後期</p> <p>(16) イントロダクション/メディア文化研究の意義と展望 (17) ～(18) 後期テキスト(未定)講義と発表者割り振り (19) ～(23) 個人発表とコメント、およびテキスト講読と関連講義 (24) ～(28) 卒業論文の全体発表・発表への討論参加 (29) ～(30) 卒業論文講評とまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：指示した文献の精読、発表の準備などを十分に行った上で授業に臨むこと。 授業後学習：配布資料、レジュメ等を整理し、自分自身の関心にひきつけて考えをまとめてみる。授業で紹介した参考文献、作品資料などのうち、関心を持ったものには積極的に目を通す。						
授業方法	学生による発表と討論を中心にした演習形式						
評価基準と評価方法	発表内容、授業への参加度、提出物等により総合的に評価する。						
教科書	「キャラクターとは何か」小田切博、筑摩書房(ちくま新書) ISBN978-4-480-06531-5 その他、授業中に指示します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IA／文芸特殊講義C／（世界の民俗と民話）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	世界の民話の研究						
授業の概要	民話の研究方法に関する基礎知識を学ぶ。グリム昔話など海外の民話を中心に扱う。						
到達目標	世界各地の民話を比較研究するために必要な基礎知識を獲得し、自分で簡単なテーマを立てて、研究できるようになること。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 口頭伝承の比較と分類 2) グリム兄弟の生涯とその時代 3) 民俗学とは、どのような学問か？ 4) バジールとグリムとペローの作品の比較 5) 口頭伝承の特徴 6) マックス・リュウティの昔話研究 7) マックス・リュウティの昔話研究（つづき） 8) 物語の構造 9) 世界の物語集（1） 10) 世界の物語集（2） 11) 死体化生物起源神話 12) 田植えと「嫁殺し田」伝説 13) 河童 14) 動物昔話 15) まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	適宜講義の中で指示する。ウェブサイトから簡単に得ることの出来る情報を事前に見ておくように指示することがある。						
授業方法	主として講義形式、受講者による簡単な報告を適宜行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加（単なる出席ではなく受講態度をも含む。30パーセント）、小レポート（30－40パーセント）、学期末のレポート（30－40パーセント）を総合して評価する。						
教科書							
参考書	講義時間中に適宜紹介する。「グリム昔話集」は文庫本などを各自で購入しておくことが望ましい。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IB／文芸特殊講義D／（日本の民俗と民話）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の民話と生活文化						
授業の概要	日本の昔話・伝説の研究方法について学びながら、日本文化の基底にある生活文化について考察する。						
到達目標	民話を民衆の生活との関係で考えるための方法を習得する						
授業計画	1) 日本の代表的な昔話、日本の気候と風土 2) 照葉樹林文化、アジアの食文化、レポート課題通知（1回目） 3) さるかに合戦、カチカチ山 4) 森と生活文化 5) 暦、客人の訪問、大歳の客 6) 浦島伝説（1） 7) 浦島伝説（2） 8) 天人女房（1） 9) 天人女房（2） 10) 正月行事、レポート課題通知（2回目） 11) 酒吞童子 12) 焼畑文化について考える 13) 日本の野生生物と人間、レポートの書き方、期末レポート課題通知 14) 伝説や古典文学から災害について考える 15) 照葉樹林文化について再考する						
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマごとに簡単な予習をすること。数回の小レポートの作成。						
授業方法	講義形式。受講者による簡単な報告を求められることがある。						
評価基準と評価方法	平常点40—60%（小レポートなどを含む）、期末のレポート60—40%。提出の義務づけられていないレポートを提出した場合には、平常点の割合を大きくすることがある。 *注記：この科目には、義務化されていないレポートの提出があります。これは講義期間中に提出するものです。出しておいた場合は、期末レポートの評価方法が違ってきます。						
教科書							
参考書	参考文献は、テーマごとに講義の中で知らせる。基本的文献としては、日本伝説大系、柳田國男全集、折口信夫全集がある。また、野本寛一の著書（『生態と民俗』『焼畑民俗文化論』など）はいずれも重要である。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIA／文芸特殊講義E／（キリスト教美術A）						
担当教員	横川 典古						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教美術を読み解く						
授業の概要	<p>東方キリスト教美術史</p> <p>「はじめに言葉ありき」とは、ヨハネによる福音書の冒頭をかざる有名な文章ですが、ことば（ロゴス）を重要視するキリスト教は、同時にイメージ言語とも言うべき画像表現も、重要なものとして発展させました。草創期のキリスト教教会においては、画像表現を偶像崇拜につながるものとして禁止していたユダヤ教の影響が強かったため、美術表現には多くの制限を設けていました。しかしローマ帝国の権力と結びつき、さらにヨーロッパ世界でのキリスト教信仰の普及と共に、壮麗な視覚芸術を創造し、西洋美術の根幹を形成してきました。前期は、古代オリエント美術から古代ギリシャ・ローマ美術をへて、東方キリスト教美術であるビザンティン美術をとりあげます。</p>						
到達目標	<p>この講義では、東方キリスト教世界のキリスト教美術を理解し鑑賞する為に、キリスト教図像学を学ぶことが目的となりますが、そのために先行する古代オリエント美術、次に古代ギリシャ・ローマ美術を美術史的に概観します。</p> <p>また、後期にとりあげる西方キリスト教美術とあわせて俯瞰し、時代や地域によって様々に変化発展する様相を知ることによって、キリスト教文化をより深く理解することが目的です。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋美術史と図像学(図像解釈学) 2. 古代エジプト美術 3. 古代メソポタミア美術 4. 地中海文明とエーゲ海美術 5. 古代ギリシャ美術 6. 古代ローマ美術 7. 初期キリスト教美術 8. コンスタンティヌス大帝と古代末期の美術 9. キリスト教建築の形成 10. 東方キリスト教美術の誕生 11. ビザンティン帝国と東方キリスト教美術 12. ユスティニアヌス朝の美術 13. モザイク装飾とイコン 14. 聖像論争とイコノクラスム 15. 末期ビザンティン美術 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った作例を、画集やインターネットによる画像などを通じて確認し、作品を鑑賞するようにしてください。さらに、関連のある美術展が開催される時には授業中に案内しますので、積極的に足を運び、本物に多く触れるよう心がけてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、期末レポート50%						
教科書							
参考書	H. W. ジャンソン著/木村重信・辻成史訳『美術の歴史』創元社						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIB／文芸特殊講義F／（キリスト教と美術B）						
担当教員	横川 典古						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教美術を読み解く						
授業の概要	<p>西方キリスト教美術史</p> <p>「はじめに言葉ありき」とは、ヨハネによる福音書の冒頭をかざる有名な文章ですが、ことば（ロゴス）を重要視するキリスト教は同時に、イメージ言語ともいうべき図像表現も重要なものとして発展させました。草創期のキリスト教教会においては、画像表現を偶像崇拜につながるものとして禁止していたユダヤ教の影響が強かったため、美術表現には多くの制限を設けていました。しかしローマ帝国の権力と結びつき、さらにヨーロッパ世界でのキリスト教信仰の普及と共に、壮麗な視覚芸術を創造し、西洋美術の根幹を形成してきました。この講義では、こうしたキリスト教美術を理解し鑑賞する為に、キリスト教図像学を中心にした西洋美術史を概観していきます。</p> <p>西ローマ帝国の崩壊後、西ヨーロッパはしばらく暗黒時代に入りますが、中世キリスト教社会の中で形成されていく西方キリスト教美術が、ルネサンス時代には新たな展開をとげ、さらにバロック時代に至るまでの発展を概観します。</p>						
到達目標	この講義では、西方キリスト教世界のキリスト教美術を知り鑑賞する為に、キリスト教図像学を中心にした西洋美術史を学びます。そして前期に学んだ東方キリスト教美術と比較しながら、キリスト教美術の特色と歴史的役割について考察し、キリスト教理解をより深めるのがねらいとなります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16. ローマ帝国の崩壊と西ヨーロッパの誕生 17. ケルト・ゲルマンの美術 18. カロリング朝の美術とキリスト教図像 19. オットー朝の美術とキリスト教修道主義 20. ロマネスク美術と聖地巡礼 21. ゴシックの大聖堂と光の美学 22. 都市の発展とゴシック美術 23. 国際ゴシック様式と写本挿絵芸術 24. プロト・ルネサンス 25. 初期イタリアルネサンスの美術 26. ローマ教皇庁と盛期ルネサンス 27. 北方ルネサンス 28. 宗教改革とマニエリスムの美術 29. 南欧バロック美術と対抗宗教改革 30. 北方バロック美術とプロテスタントイズム 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った作例を、画集やインターネットによる画像などを通じて確認し、作品を鑑賞するようにしてください。さらに、関連のある美術展が開催される時には授業中に案内しますので、積極的に足を運び本物に多く触れるよう心がけてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、期末レポート50%						
教科書							
参考書	H. W. ジャンソン著/木村重信・辻成史訳『美術の歴史』創元社						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIIA / (日本ジャーナリズム史)						
担当教員	西川 純司						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	歴史からみる日本のジャーナリズムとメディア						
授業の概要	たとえプロのジャーナリストにはならなくても、インターネットを通じて誰もが報道・評論活動を行ないうる現在、ジャーナリズムの原理や歴史を知っておくことは重要です。この授業では、わたしたちが生活していくなかで最低限知っておくべき日本のジャーナリズムの歴史について概括的に学びます。まず、現在の日本のジャーナリズムにみられる特質や問題点が、どのようにして歴史的にできあがってきたのかをトピックごとに考えます。その後、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアをとりあげ、それらが報道や評論活動をいかに規定してきたのかを検討します。歴史を学ぶことは、単に過去を知るだけではなく、現在や未来を考えるヒントを探ることに他なりません。						
到達目標	受講することで、日本のジャーナリズムの歴史について最低限知っておくべき知識が得られます。また、歴史を知ることで、現在、そしてこれからのジャーナリズムのあり方を考える手がかりがつかめるようになります。						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 なぜジャーナリズムを学ぶのか？ 3 ジャーナリズムの世界史 4 ジャーナリズムとメディア 5 日本のジャーナリズム (1) : 言論の自由 6 日本のジャーナリズム (2) : 客観的報道 7 日本のジャーナリズム (3) : 人権と報道 8 日本のジャーナリズム (4) : コマーシャルリズム 9 日本のジャーナリズム (5) : 記者クラブ 10 メディア史 (1) : 新聞 11 メディア史 (2) : 出版 12 メディア史 (3) : テレビ 13 メディア史 (4) : インターネット 14 課題レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。また、日常的にニュースや新聞を意識して見たうえで授業に臨んでほしい。						
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。						
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点(授業での発言や貢献度)30%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	田村紀雄・林利隆・大井眞二編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社 原寿雄『ジャーナリズムの思想』岩波新書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義III B / (メディア社会の諸問題)						
担当教員	西川 純司						
学期	後期 / 2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	写真から考えるメディア社会						
授業の概要	報道写真やドキュメンタリー写真は社会の出来事を伝えてくれる一方で、ときに情報操作にも用いられます。また写真は、商品や観光地を魅力的にみせる一方で、過剰な演出を生み出すことがあります。さらに写真は、スマホによって手軽に撮影しネットで共有できる一方で、「晒され」たり編集・加工されたりもします。このように、写真は政治から経済、文化にいたるまで社会と深く結びついた重要なメディアですが、それゆえときに問題を引き起こします。この授業では、毎回テーマに沿った写真（ピューリッツァー賞受賞作や話題の写真）をもとに、写真というメディアがもつ特質やそれがもたらす諸問題について考えてみます。						
到達目標	受講することで、写真を批判的に読み解くための方法が身につきます。また、写真がもたらす問題についての理解が深まります。さらに、ディスカッションやグループワークを通じて、自分の意見を主張する訓練を積むことができます。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 写真とは何か 3 写真を分析する視点 4 報道と写真 (1) : 戦争 5 報道と写真 (2) : 事件・事故・災害 6 報道と写真 (3) : 記憶 7 消費と写真 (1) : 観光 8 消費と写真 (2) : 広告 9 消費と写真 (3) : アート・美術館 10 文化と写真 (1) : ネット (ブログ・ツイッター) と共有 11 文化と写真 (2) : 写真加工 12 文化と写真 (3) : 監視と「見られたい願望」 13 課題レポート検討会 14 課題レポート発表会 15 まとめ 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業中に紹介する文献を読んでおくことで理解が深まります。また、日常的に写真に興味をもち好きになることもまた学習です。						
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。						
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点 (授業での発言や貢献度) 30%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	授業中に適宜紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IVA／文芸特殊講義A／（まんが文化論A）						
担当教員	村上 知彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディア文化論-メディアの発達とまんが・アニメ						
授業の概要	印刷メディアから映像、放送メディア、現代のデジタルメディアまで、メディアの発達と大衆文化との関わりを、まんが・アニメを中心に概観する。絵と文の融合した表現であるまんがは、歴史的には文学からも絵画からもはみ出した、いわばサブジャンルとして位置づけられてきた。しかし、量的にも質的にも飛躍的に発達した現代まんがは、もはやそれだけでは片づけられない位置を現代文化の中に占め、あらゆる表現分野にさまざまな影響を与えている。戦後、独自の発展をとげた日本のまんが・アニメが、メディアの発達とどう関わり、何を描き出してきたかを、メディア史の視点から跡づけたい。						
到達目標	まんが・アニメとさまざまなメディアとの関わりを通して、メディアの発達の歴史とその文化的意味を理解する。まんがと、現代の多様な表現分野との影響関係を知ること、メディア文化の最前線にふれ、その可能性や問題点について考える。						
授業計画	(1) イントロダクション (2) メディア文化とは何か/メディアとしてのまんが (3) まんが文化の現在 (4) メディアの発達とまんがの歴史1 前史～手塚治虫 (5) メディアの発達とまんがの歴史2 月刊誌～週刊誌 (6) メディアの発達とまんがの歴史3 貸本劇画と青年メディア (7) メディアの発達とまんがの歴史4 少女雑誌と少女メディア (8) 映画メディアとまんが (9) 映画メディアとアニメ (10) テレビ・メディアとまんが/アニメ (11) メディア文化の現在とまんが/アニメ (12) メディア・アートとまんが表現 (13) まんが/メディア文化と著作権 (14) グローバル化するまんが/メディア文化 (15) まとめ まんが/メディア文化の未来						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回授業で理解できなかった点の質問を準備するなど、授業の流れを確認して授業に臨む。 授業後学習：配布資料はもういちど精読し、授業の要点をまとめておく。授業で紹介した参考文献、作品資料などのうち、関心を持ったものには積極的に目を通す。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート（60%）、提出物および平常点等（40%）						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書	「メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話 改訂版」吉見俊哉、有斐閣 ISBN978-4-641-12487-5 その他、授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IVB/文芸特殊講義B/ (まんが文化論B)						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	都市とサブカルチャー-メディアとしての街・都市という文化						
授業の概要	現代のさまざまな情報文化は、都市という場で私たちの生活と関わりあいながら、都市の生活文化となってゆく。まんがやアニメ、ゲームやアイドルなどのサブカルチャーも、映画館や美術館、書店や喫茶店、百貨店や遊園地、建築物や交通機関といった都市の構成要素を通して我々に届いている。それは情報の発信装置であると同時に日々の生活の一部でもある。そのような情報と生活の接する場としての都市に生成し、さまざまなスポットを通して発信される「都市とサブカルチャー」のかかわりの諸相を、タウン情報誌など各種メディアにあらわれた情報によって読み解きながら、メディアとしての街について考える。						
到達目標	前期に考察したさまざまなメディア文化は、わたしたちの日々の生活とどのように関わっているか。わたしたちの暮らす都市という場をひとつのメディアとしてとらえ、さまざまなサブカルチャーを伝えるその情報発信装置としてのなりたちと、都市を構成する諸要素の役割や意義を理解する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) イントロダクション (2) 都市とサブカルチャー/情報誌的世界のなりたち (3) 考現学入門 (4) 映画と都市1/シネコンと映画街 (5) 映画と都市2/ミニシアターと名画座 (6) 音楽と都市 ホール/ライブハウス (ジャズ喫茶) (7) 演劇と都市 劇場/寄席 (ポスター) (8) 美術と都市 美術館/画廊 (9) 文学と都市 図書館/書店/文学館 (10) 消費と都市1/飲食店 (喫茶店/カフェ/レストラン/バー) (11) 消費と都市2/百貨店と商店街 (地下街) (12) 交通と都市 沿線文化/遊園地 (13) 街並みと都市 街路/建築 (14) メディアとしての街 (15) まとめ 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習： 前回授業で理解できなかった点の質問を準備するなど、授業の流れを確認して授業に臨む。 授業後学習： 配布資料はもういちど精読し、授業の要点をまとめておく。紹介した都市の情報文化に実際にふれてみるなど、授業内容の実践的理解を心がける。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート (70%)、提出物および平常点等 (30%)。						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書	「情報誌的世界のなりたち」村上知彦、思想の科学社 ISBN 「『ブガジャ』の時代」大阪府立文化情報センター編、ブレーションセンター ISBN978-4-8339-0701-9 その他、授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIA						
担当教員	澤西 祐典						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の創作						
授業の概要	作品を実際に制作することにより、創作文芸における表現力とは何かを学習します。授業では、与えられた課題について各自が作成した作品を鑑賞します。						
到達目標	文芸作品を創作する上での心構えと基本的な技術を身につけます。						
授業計画	第一回 書くことに対する心構え 第二回 作品鑑賞 (1) 夏目漱石「夢十夜」を読む 第三回 作品鑑賞 (2) 課題①「第十一夜」 - 1 第四回 作品鑑賞 (3) 課題①「第十一夜」 - 2 第五回 作品の構造・文体について考える 第六回 作品鑑賞 (4) 課題②「一人称」 - 1 第七回 作品鑑賞 (5) 課題②「一人称」 - 2 第八回 作品鑑賞 (6) 課題③「三人称」 - 1 第九回 作品鑑賞 (7) 課題③「三人称」 - 2 第十回 作品鑑賞 (8) 課題④「会話・話し言葉」 - 1 第十一回 作品鑑賞 (9) 課題④「会話・話し言葉」 - 2 第十二回 作品鑑賞 (10) 課題⑤「人間模様」 - 1 第十三回 作品鑑賞 (11) 課題⑤「人間模様」 - 2 第十四回 作品鑑賞 (12) 課題⑤「人間模様」 - 3 第十五回 まとめと質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容)	課題に従って、四〇〇字詰め原稿用紙五枚程度までの作品を制作し、期限内に提出して下さい。						
授業方法	講義および受講生作品の鑑賞						
評価基準と評価方法	平常点50%、課題点50%						
教科書	『夢十夜』夏目漱石著 新潮文庫 ISBN978-4101010182						
参考書	『梶井基次郎(ちくま日本文学28)』梶井基次郎著 ちくま文庫 ISBN978-4480425287						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅠB						
担当教員	澤西 祐典						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の創作						
授業の概要	作品を実際に制作することにより、創作文芸における表現力とは何かを学習します。授業では、与えられた課題について各自が作成した作品を鑑賞します。						
到達目標	文芸作品を創作する上での心構えと基本的な技術を身につけます。						
授業計画	第一回 導入と質疑応答 第二回 書く対象について考える 第三回 作品鑑賞(1) 課題①「食」 - 1 第四回 作品鑑賞(2) 課題①「食」 - 2 第五回 作品鑑賞(3) 課題②「身近なもの」 - 1 第六回 作品鑑賞(4) 課題②「身近なもの」 - 2 第七回 作品鑑賞(5) 課題③「場所」 - 1 第八回 作品鑑賞(6) 課題③「場所」 - 2 第九回 作品鑑賞(7) 課題③「場所」 - 3 第十回 作品鑑賞(8) 課題④自由課題 - 1 第十一回 作品鑑賞(9) 課題④自由課題 - 2 第十二回 作品鑑賞(10) 課題⑤改稿 - 1 第十三回 作品鑑賞(11) 課題⑤改稿 - 2 第十四回 校正・冊子製本 第十五回 冊子合評						
授業外における学習(準備学習の内容)	課題に従って、四〇〇字詰め原稿用紙五枚程度までの作品を制作し、期限内に提出して下さい。						
授業方法	講義および受講生作品の鑑賞						
評価基準と評価方法	平常点50%、課題点50%						
教科書	『春琴抄』谷崎潤一郎著 新潮文庫 ISBN978-4101005041						
参考書	『愛の生活』金井美恵子著 講談社文芸文庫 ISBN978-4061975781						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIA						
担当教員	岩崎 正裕						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の音読研究						
授業の概要	戯曲という文芸作品を声に出して読みます。戯曲の中心は対話であり、その行間には様々な解釈が成り立ちます。現代・近代・古典の戯曲の中から抜粋し、登場人物の感情や行動を分析し、実際の劇表現を体験します。						
到達目標	台詞の分析、音読を通して現代における対話の可能性を探ります。それは自分自身のコミュニケーションを見直す機会ともなり、他者との意思疎通の向上にも役立ちます。						
授業計画	1. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 物語と構造を中心に 2. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 恋愛と登場人物について 3. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 現代における翻案の可能性 4. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 音読と実践 5. チェーホフ「かもめ」を読む 物語と構造を中心に 6. チェーホフ「かもめ」を読む 人物の関係性と恋愛模様 7. チェーホフ「かもめ」を読む 台詞の解釈と謎解き 8. チェーホフ「かもめ」を読む 音読と実践 9. 地域言語による戯曲の可能性Ⅰ 関西弁の台詞を読む 10. 地域言語による戯曲の可能性Ⅱ 関西弁と標準語の差異 Ⅰ 1. 現代詩を群読するⅠ Ⅰ 2. 現代詩を群読するⅡ 13. 日本の戯曲 日本の現代演劇史の中から 14. 日本の戯曲 現代演劇の領域と実践 15. 前期のまとめと発展						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に「ロミオとジュリエット」「かもめ」については一読しておいてください。その他のテキストについては随時配布します。						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点70% 欠席の場合は減点 参加意欲30%						
教科書	新訳 ロミオとジュリエット シェイクスピア 河合祥一郎訳角川文庫 ISBN978-4-04-210615-9 かもめ・ワーニャ伯父さん チェーホフ 神西清訳新潮文庫 ISBN978-4-10-206502-0						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIB						
担当教員	岩崎 正裕						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の音読研究						
授業の概要	日本の現代戯曲をテキストにリーディングを行います。リーディングとは、複数の相手とコミュニケーションをとりながら台詞を声に出して表現する行為です。何度も反復しながら作品をどのように立体化するかを模索します。						
到達目標	台詞を中心とする文学が戯曲です。作品が具体化するにつれて立体的な空間が現れます。相手との呼吸や距離を意識することによって、普段のコミュニケーションを見つめ直す機会となります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーディング候補作の提案 2. リーディング候補作の選定 3. 登場人物の関係性と背景（実践） 4. 立って読む、座って読む（立ち座りの実践） 5. 行動を起こす（音読と行為） 6. 相手との距離（近づく・離れる） 7. 空間と身体（有効なポジションとは） 8. 感情の開放と抑制（生きた役を作る） 9. 場面を創造する（作品の可視化） 10. 戯曲に頼らずに演技する（台詞に戻るための即興練習） I 1. 言葉と向き合う（即興から戯曲へ 新たなる発見） I 2. 関係の構築Ⅰ（呼吸と距離の点検） I 3. 関係の構築Ⅱ（呼吸と距離の点検 その発展） 14. リーディング発表（2班体制で発表） 15. 後期のまとめ（発表の合評会） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	台詞を暗誦することが目的ではありませんが、日々の間に作品を読むことが大切です。						
授業方法	実技実践を中心とします。						
評価基準と評価方法	平常点70% 欠席の場合は減点 参加意欲30%						
教科書	必要に応じて配布します。						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅢⅠA						
担当教員	松尾 郁子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	自然と響き合う、色を響かせ合う						
授業の概要	季節の草花の色をつくることや基本的な色彩構成・構図を学び制作、実践していく。						
到達目標	日常生活の中にあふれる様々な美しい色をより鋭敏に感じ、色を響かせ合い、自身の色をつくる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：季節の草花の色をつくる 第3回：季節の草花の色をつくる 第4回：季節の草花の色をつくる 第5回：ARZAK Rhapsody・フレンチコミック 第6回：色彩キューブ 第7回：色彩キューブ 第8回：色彩キューブ 第9回：色彩キューブ 第10回：切り絵・はさみによる植物デッサン 第11回：切り絵・はさみによる植物デッサン 第12回：切り絵・はさみによる植物デッサン 第13回：構図について 第14回：コラージュ 第15回：コラージュ・合評						
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的に無し						
授業方法	講義・実技						
評価基準と評価方法	出席重視。提出物・レポート等から総合的に評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅡIB						
担当教員	徳永 隆之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術としての写真						
授業の概要	写真を使った作品制作に取り組み、制作者の視点から美術作品を考察することに重点を置きます。授業ではピンホールカメラを製作した後に撮影をおこない、写真の原理を理解します。その後、デジタルカメラを使用して撮影技術を学びます。また、普段触る機会が少ない大型カメラでの撮影も体験し、写真の原理に対する理解を深めます。実習と平行して、写真作家の作品集鑑賞をおこない、作品に込められたメッセージを読み取る練習をします。						
到達目標	1. カメラの操作方法を学ぶ。 2. 制作する体験を通して、美術作品をより深く理解する。						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 ピンホールカメラ製作 第3回 撮影実習① (ピンホールカメラを使用して撮影をおこなう) 第4回 撮影の基礎知識について学ぶ 第5回 撮影実習② (人物撮影) 第6回 画像調整ソフトの使用説明 第7回 blogの作成及びwab上へ写真の掲載 第8回 大型カメラ及びデジタル一眼レフカメラの使用説明 第9回 撮影実習③ (大型カメラを使用して撮影をおこなう) 第10回 撮影実習④ (大型カメラを使用して撮影をおこなう) 第11回 撮影実習⑤ (デジタル一眼レフを使用して撮影をおこなう) 第12回 作品集鑑賞① 第13回 作品集鑑賞② 第14回 撮影実習⑥ (コンストラクティッドフォトについて考える) 第15回 画像編集・レポート及び作品提出						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業外で各自被写体を探し撮影します。また、写真提出はblogでおこないます。						
授業方法	実習及び演習						
評価基準と評価方法	「課題 40%、平常点 60%」欠席した場合は大幅に減点しますので注意してください。						
教科書	必要な際にプリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅣA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う						
授業の概要	音楽と深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得たりするだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで、時空を越えて無限に広がる世界を知りましょう。						
到達目標	鍵盤楽器を通して代表的な名曲を知り、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を学びます。学期末には学生主体による発表会を予定しています。						
授業計画	第1回 キャンパス内の鍵盤楽器見学・オリエンテーション 第2回 チェンバロについての基礎知識 第3回 チェンバロ演奏の基礎(1) 第4回 チェンバロ演奏の基礎(2) 第5回 「チェンバロができるまで」DVD鑑賞 第6回 バロックの小曲を弾いてみよう(1) 第7回 バロックの小曲を弾いてみよう(2) 第8回 バロックの小曲を弾いてみよう(3) 第9回 アンサンブルをしてみよう(1) 第10回 アンサンブルをしてみよう(2) 第11回 アンサンブルをしてみよう(3) 第12回 発表会の準備(1) 第13回 発表会の準備(2) 第14回 発表会の準備(3) 第15回 前期クラス内発表会						
授業外における学習(準備学習の内容)	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。						
授業方法	講義・実習・発表						
評価基準と評価方法	平常点(60%)、レポート(10%)および発表(30%)を総合的に評価。						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIVB						
担当教員	上野 静江						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う						
授業の概要	音楽と深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得たりするだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ること、時空を越えて無限に広がる世界を知りましょう。						
到達目標	鍵盤楽器を通して代表的な名曲を知り、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を学びます。学期末には学生主体による発表会を予定しています。						
授業計画	第1回 パイプオルガンについての基礎知識 第2回 パイプオルガン演奏の基礎(1) 第3回 パイプオルガン演奏の基礎(2) 第4回 パイプオルガン演奏の基礎(3) 第5回 パイプオルガン演奏の基礎(4) 第6回 「パイプオルガン誕生」DVD鑑賞 第7回 いろいろな曲を弾いてみよう(1) 第8回 いろいろな曲を弾いてみよう(2) 第9回 いろいろな曲を弾いてみよう(3) 第10回 いろいろな曲を弾いてみよう(4) 第11回 発表会の準備(1) 第12回 発表会の準備(2) 第13回 発表会の準備(3) 第14回 発表会の準備(4) 第15回 クラス内発表会と講評						
授業外における学習(準備学習の内容)	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。						
授業方法	講義・実習・発表						
評価基準と評価方法	平常点(60%)、レポート(10%)および発表(30%)を総合的に評価。						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVA						
担当教員	緋田 芳江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	声楽曲を学ぶ						
授業の概要	主にクラシックの声楽曲から代表的な作品を選び、実際に歌ってみることを通して、詩と音楽の結びつきや、作曲家、詩人、時代背景などへの理解を深めます。						
到達目標	声楽作品の概要を学ぶことができます。詩歌の理解を深めることができます。外国語の歌詞や楽譜の読み方、発声など声楽の基礎を身につけることができますようになります。						
授業計画	第1回 日本歌曲(1) 「早春賦」ほか 第2回 日本歌曲(2) 山田耕筰と北原白秋 第3回 日本歌曲(3) 中田喜直と別宮貞雄「さくら横ちょう」の比較 第4回 日本歌曲(4) 武満徹の『うた (Songs)』より 第5回 宗教曲(1) Ave Maria 第6回 宗教曲(2) Ave verum corpus 第7回 宗教曲(3) バッハ、ヘンデルの作品を知る 第8回 まとめと試験 第9回 ドイツ歌曲(1) シューベルト「野薔薇」 第10回 ドイツ歌曲(2) モーツァルト「すみれ」 第11回 オペラアリア(1) バロック時代のオペラから 第12回 オペラアリア(2) 古典派のオペラから 第13回 オペラアリア(3) ロマン派のオペラから 第14回 重唱、合唱へのひろがり 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：次回に取り上げる作品の歌詞調べや譜読み等。毎回の授業後に課題を具体的に示します。授業後学習：学んだ作品を繰り返し歌い、同じ作曲家・詩人の他の作品なども興味を持って調べてみてください。						
授業方法	講義と試演。						
評価基準と評価方法	試験(2回)40%、課題30%、平常点30% 欠席した場合は減点。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVB						
担当教員	三川 美幸						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	音・音楽との触れ合い。						
授業の概要	我々の日常は、様々な音や音楽に囲まれています。そのような身近な題材に焦点をあてつつ、サウンドスケープの概念をはじめとしての近年注目されている音楽療法の紹介も交えながら、様々な視点から個人における音楽との触れ合い、意味について考えを深めます。 授業形式としては、講義・視聴覚教材を使用しながら講義する共に、音や音楽を聴き、そうしたことを講義の教材として、ディスカッションを行う機会を設定します。						
到達目標	1. 幅広い視点から「音楽」についてとらえることができる。 2. サウンドスケープの概念についてわかるようになる。 3. 音楽が我々の生活にどの様に使用され、影響を与えているかについての気づきを得る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 音の生態学・音楽と私 第3回 サウンドエデュケーション(音に関わる課題)1 第4回 サウンドエデュケーション(音に関わる課題)2 第5回 様々な音・音楽1 第6回 様々な音・音楽2 第7回 音と映像・イメージ1 第8回 音と映像・イメージ2 第9回 音と映像・イメージ3 第10回 音楽とイベント 第11回 静けさについて・(課題の発表) 第12回 俳句の世界 第13回 音楽療法について 第14回 音楽療法について 第15回 試験と質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：事前学習：授業の最後に、次回のテーマについての説明を行います。教科書の該当する箇所について指示をしますので、事前に予習を行ってください。また、項目によっては、授業準備として簡単な課題の指示を行うことがあります。 授業後学習：授業中に示された視聴覚教材と教科書に示された例についての関係性について振り返り、要点をまとめてください。後日、履修内容の確認のために、課題を出します。質問がある場合は、メールで質問を行ってください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	学習態度及び提出物(課題随時、レポート1回)60%、試験1回40%						
教科書	『音の生態学－音と人間のかかわり』若宮真一郎著、コロナ社 ISBN-4-339-07694-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVIA						
担当教員	藤井 推						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・コピーライティングの理論と実践						
授業の概要	「広告はラブレターである」「広告はニュースである」・・・等広告はいろいろな側面をもって語られますが、消費者の心の動きを洞察しいかにして購買に結び付けるかを突き詰めて考えていく作業です。本講座では、広告のキーであるコピーについての考察をさまざまな角度から行っていききたいと考えます。そのために、最近の成功したキャンペーンや話題になったCMから大阪ならではの面白いCM、世界のCMまでを取り上げコピーライティングの基本を学んでいきます。						
到達目標	消費者の心理を洞察し、仮説をたてて、どうしたら好きになってもらえるか、どうしたら買ってもらえるかを考え、考えたことをわかりやすく説明することを体験することによってコミュニケーション能力を向上させます。このチカラは広告業界だけでなく、社会生活全般で役立つものです。また、優れた広告を多く鑑賞することによって、広告の自由な発想や楽しさを理解できます。						
授業計画	第1回 広告とは (1) 日本の広告事情 第2回 広告とは (2) コピーの役割 第3回 TVコマーシャルの研究 (1) ACジャパンのキャンペーン 第4回 クリエイティブワークショップその1 第5回 TVコマーシャルの研究 (2) 企業広告 第6回 クリエイティブワークショップその2 第7回 ラジオCMの研究 第8回 クリエイティブワークショップその3 第9回 新聞広告の研究 第10回 クリエイティブワークショップその4 第11回 広告に関連する規制 第12回 世界の広告の研究 (カンヌクリエイティブフェスティバルより) 第13回 キャスティングの役割 (タレントCM考) ~ゲストスピーカー (株)大広 柴倉一裕氏 第14回 広告のローカルティ 大阪発の面白CM考 第15回 ワークショップまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習 テレビCM、新聞広告、電車社内吊りポスター等を日々意識してチェックしてください。 授業後学習 ワークショップで課題制作が完成しなかった場合次回までに完成させてください。						
授業方法	講義と実習 (ワークショップ)						
評価基準と評価方法	平常点50%・コピー制作・発表50%						
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	授業の中で適宜紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVIB						
担当教員	戸倉 信吉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	SNS時代の文章作法を学び、書く。						
授業の概要	講義と書く実践。新聞の文章を放送用にリライト。書き言葉としゃべり言葉の違い。言葉で状況や情感を他人に伝える訓練。「LINE」は絵文字で感情を伝える。人の心を打つ文章とは？SNS時代の文章作法を書く実践により学びます。 SNSを日記代わりにしているあなた！友達の写真を無許可で貼っていない？ちょっと待て！ウェブにUPしたら誰が見てるかわからない！？リベンジ流出、拡散の危険を知ってる？授業中にテーマを出し、即書いてもらう。						
到達目標	“ことば力”を磨く。情報の送り手のプロの文章作法、新聞・小説・雑誌・テレビに学び、インターネット時代にふさわしいリテラシーや文章力を身に付ける。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 9/26 「言葉Words」や「文字Character」は、コミュニケーションの基本 ② 10/3 手紙からメールそしてSNSへ ～メールとつぶやきの違い～ ③ 10/10 「テレビ・新聞・雑誌・ラジオ」マス4媒体の書き言葉と話し言葉 ④ 10/17 文芸作品 ネット上の「青空文庫（無料）」から好きな短編小説をダウンロードし書評を書く。その1 ⑤ 10/24 SNS「LINE」や「Facebook」の文章作法。実践～書いて良いこと、悪いこと～ ⑥ 10/31 ミッキーマウスを画いてネットに上げたら法外な請求書がきた。 ⑦ 11/7 カナダのメディアリテラシー教育って？感想文作成 ⑧ 11/14 著作権って？感想文作成 ⑨ 11/21 現代の文章は、起承転結ではなく「序破急」です。 ⑩ 11/28 「青空文庫」から好きな小説をダウンロードし書評を書く。その2 ⑪ 12/5 SNS「LINE」や「Facebook」の文章作法 その2 ⑫ 12/12 言葉そして映像、音をつかさどる「脳」の仕組みとは？ ⑬ 12/19 高度情報化社会の光と影 ⑭ 1/9 Digital時代を生きる貴女 第三次産業革命。感想文作成 ⑮ 1/16 まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	SNSの文章で気に入った或いは気になる文章を宿題として毎週提出してもらう。 ネット上の無料小説サイト「青空文庫」から好きな短編小説をダウンロードし読んでおく。						
授業方法	メールやFBは冗談が通じない。書き手の意図をどうすればネット世界でも通じるように出来るのか？新聞、テレビなどのメディア、ネット時代のコミュニケーションの在り方を履修生と共にスマホを手に実践的に考察する。読んだ人の気持ちになること						
評価基準と評価方法	平常点。日常の課題の合計点で評価する。						
教科書	随時紹介する。						
参考書	電子教科書『放送とは何か？QUARTET』2014年度改訂版 ￥1,000 戸倉信吉著『放送とは何か？3 Screens era』サテマガBI社2009年刊 ￥2,000						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎A						
担当教員	柿沼 申明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	空間芸術、時間芸術、言語芸術の形成と発展						
授業の概要	<p>芸術はいつ誕生したのでしょうか？ おそらく、われわれが現生人類であるホモ・サピエンスに進化した数十万年前からずっと後代のことではないでしょうか。美に感応する心は、人間のもつ五つの感覚（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）を通して発達したと考えられます。これら五感のなかで、特に視覚と聴覚が美意識の形成に多く寄与したことは疑いの余地がありません。カントは、空間と時間の認識は、人間の先験的な能力であると考えました。視覚は空間芸術である絵画や彫刻、聴覚は時間芸術である朗読や音楽などの美的形式を生み出しました。空間的なイメージと時間的なリズムは意識のなかで統合され、当初は概念の伝達手段にすぎなかった実用的な言語に依拠しながら、「詩」という独特な言語芸術を花開かせます。詩から「物語」が組成され、リズムを失った「散文」へと昇華していきます。空間芸術、時間芸術、そして両者の統合物である言語芸術の相関的な発展を、様々な観点から考察していきます。</p>						
到達目標	<p>美術・音楽・文学という美的形式の歴史的な変遷を説明できるようになる。 今後の総合文芸学科での学びの基礎となる文芸学とは何かを理解する。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業の趣旨、年間プログラム、成績評価の方法に関する説明 (2) 空間芸術、時間芸術、言語芸術という三分割論の解説 (3) 美術の起源（洞窟壁画からギリシア・ローマ美術まで） (4) 音楽の起源（音階、単旋律グレゴリオ聖歌、ポリフォニー、ホモフォニー） (5) 詩の起源（言語の音的構造の違いに由来する詩形式の相違） (6) 古代ギリシアの演劇（ディオニュソス祭儀、悲劇の構成、劇場の構造） (7) ローマカトリックとビザンチンの美術様式の違い（東西キリスト教の聖画の描き方） (8) 西欧中世の「悪魔」と「魔女」の表象（ファウスト伝説に寄せて） (9) ルネッサンス美術と人間賛美の思想 (10) レオナルド・ダ・ヴィンチの天才性 (11) バッハ、ヘンデル、モーツァルト（18世紀ドイツ音楽史） (12) 物語の構造分析1（シクロフスキーの「異化」と「物語の枠組」の理論） (13) 物語の構造分析2（プロップの「昔話のモチーフ」の理論） (14) 物語の構造分析3（ジェラルド・プリンスの「信用のおけない語り手」の理論） (15) 期末テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義の理解						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<p>期末テスト80%、平常点20%（欠席は5枚まで）。 期末テストは、講義で扱った複数のトピックから2つを選択し、その概要を述べよとする。</p>						
教科書	授業内容はプリント配布かパワーポイント						
参考書	毎回の授業で参考書を指示						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎B						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	空間芸術、時間芸術、言語芸術の形成と発展						
授業の概要	<p>芸術はいつ誕生したのでしょうか？ おそらく、われわれが現生人類であるホモ・サピエンスに進化した数十万年前からずっと後代のことではないでしょうか。美に感応する心は、人間のもつ五つの感覚（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）を通して発達したと考えられます。これら五感のなかで、特に視覚と聴覚が美意識の形成に多く寄与したことは疑いの余地がありません。カントは、空間と時間の認識は、人間の先験的な能力であると考えました。視覚は空間芸術である絵画や彫刻、聴覚は時間芸術である朗読や音楽などの美的形式を生み出しました。空間的なイメージと時間的なリズムは意識のなかで統合され、当初は概念の伝達手段にすぎなかった実用的な言語に依拠しながら、「詩」という独特な言語芸術を開花させます。詩から「物語」が組成され、リズムを失った「散文」へと昇華していきます。空間芸術、時間芸術、そして両者の統合物である言語芸術の相関的な発展を、様々な観点から考察していきます。後期は、近代以降が考察対象となります。</p>						
到達目標	<p>美術・音楽・文学という美的形式の歴史的な変遷を説明できるようになる。 今後の総合文芸学科での学びの基礎となる文芸学とは何かを理解する。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 遠近法の発展 —西欧— (2) 遠近法の発展 —日本— (江戸期の浮世絵) (3) 19世紀のリアリズム文学 (産業革命とバルザック・フローベール・トルストイ) (4) シンフォニー (交響楽) の完成 (ベートーヴェン) (5) 視点・語り・プロット (近代文学の「内的独白」と「意識の流れ」の潮流) (6) 視覚イメージと心象の統合 —フランス印象派— (モネを中心に) (7) ワグナーのめざした総合芸術 (『ニーベルングの指輪』を中心に) (8) バレエの生成発展 (ロマンティック・クラシック・モダンの相違) (9) 明治維新後の日本文学 (言文一致の追求、私小説) (10) 具象絵画から抽象絵画へ (写真の発明、アブストラクト美術の生成展開) (11) 映画の成立 (エイゼンシュテインの理論) (12) 世界大戦と西洋美術 (ピカソ、ダリなど) (13) 映画の発展 (モノクロ時代、ハリウッド文化の繁栄、現代のCG映画) (14) 戦後の日本文学 (ノーベル文学賞受賞者か候補者：川端、三島、大江) (15) 期末テスト 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	講義の理解						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<p>期末テスト80%、平常点20% (欠席は5回まで) 期末テストは、講義で扱った複数のトピックから2つを選択し、その概要を述べよとする。</p>						
教科書	授業内容はプリント配布かパワーポイント						
参考書	毎回の授業で参考書を指示						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現A						
担当教員	勝村 弘也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	分かりやすい文章を書きましょう						
授業の概要	内容や主張が他者にうまく伝わる文章を書くための練習をします。そのためには、一定量の文章を読むという訓練も必要です。ひとの話を聞いて要点をまとめる練習、映像を文章化する練習などを行います。						
到達目標	他者によく分かる文章を書くこと						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 読みやすい文章とは？ 朗読テキストを読む 第3回 街の魅力を文章で表現する 第4回 間違いやすい漢字、間違いやすい表現 第5回 ストーリー性のある文章を書く（1） 第6回 ストーリー性のある文章を書く（2） 第7回 書かれた文章を批評する（前半のまとめ） 第8回 絵画の内容を説明する 第9回 長文の新聞記事の内容をまとめる 第10回 必要な情報を収集して、文章にまとめる 第11回 前回のつづき 第12回 さまざまな意見を参考にしながら、自分の意見を述べる 第13回 自分の主張を短い文章にまとめる 第14回 はなしの内容をメモにとって文章にまとめる 第15回 書かれた文章を批評する（後半のまとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回のよう宿題が出ます。						
授業方法	文章の音読、提示された課題を文章にする。書かれた文章の点検。						
評価基準と評価方法	受講者がほとんど毎回のよう提出する文章によって成績を評価する。適宜、漢字の書き取りテストなどを実施する。その結果も評価対象となる。学期末の試験は実施しない。						
教科書	なし						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現A						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	楽しく書こう						
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造の意味をもつ。書くことによって自分を発見し、新たな自分を創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。						
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを味わいながら、文章表現法を身につける。						
授業計画	以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 1 オリエンテーション 2 資料収集調査指導・図書館案内 3 書くこと 4 文例1他 5 文例2他 6 文例3他 7 作文他 8 水の入ったコップ 9 文例1他 10 文例2他 11 文例3他 12 文例4他 13 作文他 14 まとめとテスト 15 反省・展開						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキスト予習 作文作成						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する場合がある。 文章表現 四〇〇字からのレッスン(ちくま学芸文庫) 著 梅田卓夫(筑摩書房) 漢検試験問題集 2級 著 (旺文社)						
参考書	言語学から記号論へ(講座記号論1) 著 川本茂雄(勁草書房)						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現B						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	分かりやすい文章を書きましょう						
授業の概要	内容や主張が他者にうまく伝わる文章を書くための練習をします。そのためには、一定量の文章を読むという訓練も必要です。ひとの話を聞いて要点をまとめる練習、映像を文章化する練習などを行います。						
到達目標	目的に応じて、文体を変えることができるようにすること。そのうえで他者によく伝わる文章であること。						
授業計画	第1回 はなしの内容をメモにとってまとめる 第2回 前回のつづき、朗読テキストを読む 第3回 文のリズムについて考える 第4回 間違いやすい漢字、間違いやすい表現 第5回 ストーリー性のある文章を書く(1) 第6回 ストーリー性のある文章を書く(2) 第7回 芸術作品の解説、詩の解説 第8回 前回のつづき 第9回 複数の新聞記事の内容をまとめる 第10回 前回のつづき 第11回 社会問題について調べる 第12回 社会問題について調べた内容をまとめる 第13回 書かれた文章を批評する 第14回 書評を書く 第15回 前回のつづきと、まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回のよう宿題が出ます。						
授業方法	文章の音読、提示された課題を文章にする。書かれた文章の点検。						
評価基準と評価方法	受講者がほとんど毎回のよう提出する文章によって成績を評価する。適宜、漢字の書き取りテストなどを実施する。その結果も評価対象となる。学期末の試験は実施しない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現B						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	楽しく書こう						
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造の意味をもつ。書くことによって自分を発見し、新たな自分を創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。						
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを味わいながら、文章表現法を身につける。						
授業計画	以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 16 ガイダンス 17 学園の風景 18 文例1他 19 文例2他 20 文例3他 21 文例4他 22 作文他 23 もうひとりの自分 24 文例1他 25 文例2他 26 文例3他 27 文例4他 28 作文他 29 まとめとテスト 30 総合						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキスト予習 作文作成						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する場合がある。 文章表現 四〇〇字からのレッスン(ちくま学芸文庫) 著 梅田卓夫(筑摩書房) 漢検試験問題集 2級 著 (旺文社)						
参考書	言語学から記号論へ(講座記号論1) 著 川本茂雄(勁草書房)						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集						
担当教員	団藤 保晴						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	新聞はどう作られるのか——取材活動や編集経験を踏まえた講義と実習						
授業の概要	<p>新聞紙面制作の基本から講義を始め、見出し表現のテクニックや紙面構成の考え方などに進みます。社会について考える力、文章力をつけるとともに、パソコンで編集作業を模擬できるデスクトップ・パブリッシング（DTP）ソフトを使って各種のパンフレットを組み上げる技術を身に付けます。</p> <p>パソコンの知識は、日本語の入力が出来る程度を前提に講義の中で教えていきます。ソフトを使いこなすには繰り返し練習していくことが必要です。最初の間は事前に用意した素材で実習します。第2段階の自由演習で素材を集めてパンフレット作りをし、最後には自分で素材も作って「自分史新聞」を組み上げることを計画しています。</p> <p>マスメディアは大きな曲がり角を迎えています。インターネット世界の急激な変化が人々の生活スタイルまで変えていくからです。市民の情報収集法も変わりつつあり、最先端の話題も適宜取り込んで講義をします。興味深い映像視聴や各種ツール使用も経験してもらい、情報リテラシー能力を高めます。</p>						
到達目標	新聞の紙面編集について基礎的な理解に達し、DTPソフトで組み上げられるようになります。さらに、応用としてチラシやパンフレットなどを効果的なデザインで編集できるようにします。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新聞はこうして作られる 2) 記事取材と文章作成の考え方 3) 紙面編集の基礎とDTPソフト 4) 見出しの種類と表現のテクニック 5) パソコンの基礎・ワードとエクセル 6) DTPソフト①テンプレートを使う 7) DTPソフト②見出し組みの実際 8) DTPソフト③写真や画像などを置く 9) DTPソフト④フォントと特殊効果 10) DTPソフト⑤小さいが目立つ箱組み 11) DTPソフト⑥大組みと仕上げ 12) 実習「西洋文学この百冊」① 13) 実習「西洋文学この百冊」② 14) 実習・新聞1面の模擬製作① 15) 実習・新聞1面の模擬製作② 16) マスメディアの組織・運営とネットの世界 17) 実習・スポーツ面模擬① 18) 実習・スポーツ面模擬② 19) 取材模擬・工場見学記事の作成 20) 取材模擬・工場見学記事と紙面構想 21) 取材模擬・工場見学新聞製作 22) 実習・社会面模擬① 23) 実習・社会面模擬② 24) 自由演習（例＝海外旅行案内）①素材集め 25) 自由演習（例＝海外旅行案内）②構成と見出し 26) 自由演習（例＝海外旅行案内）③大組み 27) 仕上げ実習・自分史新聞①記事の作成 28) 仕上げ実習・自分史新聞②構成 29) 仕上げ実習・自分史新聞③見出しと箱組み 30) 仕上げ実習・自分史新聞④大組み 						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習に使う記事やデータや画像の準備を指示することがあります。						
授業方法	パソコンでデスクトップ・パブリッシング（DTP）ソフトを使った実習を中心に進めます。適宜、講義も交え、映像視聴なども加えます。						
評価基準と評価方法	授業・実習への参加ぶり（30%）、実習作品の仕上がり（70%）						

教科書	毎回、以下の講義録ウェブから授業資料を配付します。予習・復習が出来ます。ウェブに入るIDとパスワードは最初の授業でお知らせします。 http://dandoweb.com/S/
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報入門A/メディア・広報入門I						
担当教員	戸倉 信吉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアの基本を理解する。						
授業の概要	<p>スマホの時代である。スマートフォンはケータイの進化形ではなく超小型手のひらに載るコンピューター、あらゆる情報収集が可能だ。若い人の活字離れがすすみ、大学生の殆どは新聞を読まないし、テレビも余り観ない。かつて社会の核心として機能していた地上波テレビなどメインフレームメディアはインターネットに追いやられるのか？高度情報社会の中で我々は、インターネットと既存メディアとどう協調しながら生きるのか？自著した電子教科書『放送とは何か？QUARTET』—2014年度改訂版—をテキストに、40年間テレビ局というマスコミの世界に身を置いた実績をふまえ、メディアの今日的意義、スマホを片時も手放せない貴女と共に考察する。授業中もスマホを使います。</p>						
到達目標	新聞・テレビそしてインターネットを批判的に見る態度、インターネット時代の「読み書きソロバン」リテラシーを身に付ける。						
授業計画	<p>① 4/11 メディアとは？マスコミとは？情報とは？ ～テレビ・パソコン・ケータイの3スクリーンズ+スマホ～ 今や、QUARTETスクリーンズ時代のメディアとは何か？ キーワードは、「21世紀はつながりっぱなしの世界」です。 ② 4/18 「テレビ・新聞・雑誌・ラジオ」マス4媒体+インターネット ③ 4/25 関西の朝は「おはよう朝日です」で始まる！～視聴率って～ ④ 5/2 歴史からみた放送とは何か？情報とは何か？～紙媒体～ ⑤ 5/9 デジタルネイティブって？ ⑥ 5/16 カナダのメディアリテラシー教育って？ ⑦ 5/23 歴史からみた放送とは何か？～音と映像媒体～ ⑧ 5/30 狼は必ず羊の毛皮をかぶってくる～テレビCM～ ⑨ 6/6 米国スーパーボウルのCMってスゴイ！ ⑩ 6/13 いけない！人のものを勝手に使うのは～著作権～ ⑪ 6/20 3・11東日本大震災とメディア ⑫ 6/27 新婚さんいらっしゃい！のヒ・ミ・ツ ⑬ 7/4 高度情報化社会の光と影 ⑭ 7/11 第三次産業革命～放送とインターネットの将来～ ⑮ 7/18 まとめ レポート提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	世の中の流れや情報を何から掴むか？テレビ、新聞、雑誌、ラジオに代表される様々なメディアを日ごろから活用する。さらに貴女のスマホからVODやポッドキャスト「YOU TUBE」などに注目、活用する。						
授業方法	その日のニュース、タイムリーな話題から入り、テレビ、DVDやインターネットなどの動画コンテンツを大型プロジェクターに映し紹介。メディアの“今”、これからの人と人のつながり、コミュニケーションの在り方を履修生と共に考察する。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート提出と4回の小テスト（70点）を実施し、レポート30点の合算。						
教科書	電子教科書『放送とは何か？QUARTET』2014年度改訂版 ￥1,000						
参考書	随時紹介する。 戸倉信吉著『放送とは何か？3 Screens era』サテマガBI社2009年刊 ￥2,000						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報入門B／メディア・広報入門II						
担当教員	瀬戸 俊昭						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	広告と広告表現の基礎を学び、実際にマスメディア広告物を作ってみる。 広告に込められた企業の事情、狙い、考え方の道筋を理解することは、社会に参加していく予習でもある。						
授業の概要	広告業界の構造、広告の予算規模、広告媒体、生活者との接点。 成功した最近の広告キャンペーン、海外の広告の紹介、分析。 広告表現に至るまでの考え方、特にコピーに注目						
到達目標	社会と広告、企業と広告の関係を理解する。 広告の目的設計から表現へ、この考え方を理解する。 世にある広告を見る目が変わる。						
授業計画	①オリエンテーション ②生活者と広告の接点（1） 実習：これまでにない交通広告を考える ③生活者と広告の接点（2） 前回の実習の講評 ④広告業界概観 実習：これまでにない広告メディアと広告 ⑤マスメディア 前回の実習の講評 ⑥社会の変化と広告 実習：マーケットの「穴」を考える ⑦広告と調査、コンセプト 前回の実習の講評 ⑧成功した広告・解説（1） ⑨成功した広告・解説（2） ⑩広告表現（1）コピー 実習：キャッチフレーズを書く ⑪広告表現（2）TVCM 前回の実習の講評 ⑫広告表現（2）TVCM 実習：TVCMの企画・講評 ⑬広告表現（3）屋外広告 実習：これまでにないアウトドア広告・講評 ⑭提出レポートのオリエンテーション 実習：RCMを書く ⑮まとめ（実習総括を含む）						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分が接した広告のうちで、気になるものを記録 授業の冒頭に「今日の注目広告」として発表してもらう。						
授業方法	講義、広告物の鑑賞、グループによる模擬広告の制作が中心。						
評価基準と評価方法	授業態度（30%）、実習成果（20%）、レポート（50%）						
教科書	特に無し。レジュメを適宜配布します。						
参考書	雑誌、書籍などを紹介。図書館の利用。						